【まちの将来像5】

都市活力がみなぎる便利で快適なまち

体等の郷更

<u> </u>	施束の概要 <u></u>										
1	まちの将来像	5 都市活力がみなぎる便利で快適なまち									
2	施策	5–1	地域組	地域経済を支える産業をまもりそだてる							
3	施策の 方向性 (前期基本 計画より)	な森林 また、i	本市の農林業は、都市近郊立地の特性をいかし、都市と農村の交流を基軸とした地産地消の取組や、適切 本森林整備を促進するとともに、地域ぐるみでの営農や市民、企業等の新たな担い手を育成します。 また、商店街が便利で楽しみのある場所として、買い物客や地域住民で賑わい、市内企業が安定的に事業 と継続し、成長を遂げるなど、活力あふれるまちづくりを進めていきます。								
				部名	補職名∙課名	氏 名					
4	評価者等	評価者(部長級)		産業環境部	部 長	吉田 誠					
4		施策	主担当課	産業環境部	商工労政課	_					
		施策	関係課	農とみどり推進課、農業委員会	事務局						
		5-1-	1 ★農林	木業の振興							
		5-1-	2 ★都市	fと農村の交流活動等による活性	生化						
	施策内の 取組	5-1-	3 ★商業	色の活性化							
5	(★:重点プ	5-1-	4 企業沿	企業活動への支援							
	ラン該当取組)										

H29年度末現在の施策の現状と課題

総合評価



- 施策の方向性に沿って順調に進行している。
- B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。

C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。 評価理由(H29年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等) H29年度末現在の施策の主な課題 高齢化等による担い手不足や農業用機械購入及 び維持費の負担増など、多くの課題があります また、安定的な売り先の確保を図る必要もありま 課題 平成29年度は、農の振興については、銭原地区で集落営農組織の費用負担軽減のた す。森林所有者の高齢化や木材価格の低下で放 め、農業用機械の貸し付けを行ったほか、市・農業委員会・府・農地中間管理機構の4者 置された人工林が増加し、木材生産機能が低下 で定期的な情報交換を実施し、農地中間管理事業を活用して農地23筆約2haで16名の新たな担い手を確保、農業経営サポートとして新規就農者1名に対し国の給付金を支給、市 ています。 市直営の市民農園は、民間の力を借りることで利用 民等を対象とした農業体験ファームを実施し、10名の受講者がありました。また、地元から 者への農の魅力発信や運営の効率化を図る必要が 整備要望があった水路や取水堰等を改修するため、国・府の補助金を活用し設計業務を 課題 あります。北辰中学校跡地活用の今後の方向性を検 実施しました。 討・決定する必要があります。新たな特産品として推 農業経営の安定化を図るため、有害獣対策としてイノシシ等123頭の捕獲及び防止柵約 1.4kmの設置を行い被害防止に努めました。エコ農産物については、約10haの圃場で栽 進していますれんげ米栽培は、栽培場所が点在して 培支援を行いました。また、学校給食用に野菜を生産してもらい、直売所を通じて5種類の おり、景観作物としての効果を発揮できていません。 地場産野菜の供給を行いました 事業主の高齢化等により、店舗の魅力の創造や 林の振興については、林業者団体が行う森林整備作業に対して支援を行いました。 発信、商店街活動等が活発に行われていないこと 都市と農村の交流については、農業祭の開催、直売所や市内体験農園が行うイベント等 課題 から、エリアの魅力が低下している状況も見受けら の情報を市HP等で発信を行いました。また、新たな特産品として考えているれんげ米栽 れます。また、農商連携の取組については、事業 培約6.2haに対する補助支援を行いました。さらに、市内6箇所の市民農園の管理運営を行い、農とふれあう場の提供を行うとともに、今後の市民農園運営方法について、指定管 者の交流は促進されていますが、具体的なマッチ 理制度での運営の可能性を探るため、企業等にヒアリングを行いました ング件数は少ない状況です 北辰中学校跡地活用については、暫定的にオートキャンプ場を開設し、利用者から跡地の検討材料や北部地域へのニーズの把握に努めました。 大企業の工場等の再編・統合の検討におい ては、本社裁量で方針が決定されるため、 商業の活性化については、申請件数が伸び悩んでいた産業活性化プロジェクト促進事 課題 企業立地促進奨励金が企業留置策や雇用 業の申請要件を改正したところ、事業者同士の交流を促進する取組が1件、新たに申請さ **(4**) れました。また、農商連携の促進に向け、農業者と飲食店経営者等の交流会を実施し、新 増加策としては機能していないことから、見 たなつながりが創出されました 直しを検討する必要があります。 企業活動への支援については、企業訪問等を通じて各種支援施策の周知を行ったこと から、前年度を上回る88件の利活用につながりました 以上のことから、施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していると判断し、総合評 課題 価は「B」とします。 (5)

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち	
2	施策	5–1	地域経済を支える産業をまもりそだてる	
3	施策内の	取組(D.評価	★·重点プラン該当取組

3	施策内の	取組の記	双組の評価 ★:重点プラン該当取組									
1	取 組	5-1-1	★農	林業の振興								
2	主担当課	部名		産業環境部	課名	農と	みどり推	進課	課長名	浦野 芳博		
3	関係課	農業委員	農業委員会事務局									
4	目 標 (前期基本 計画より)		農業生産施設や農村生活環境が整備され、さまざまな担い手により、農業が営まれ、安全・安心な農作物が市民に供給されています。また、適切な森林整備が進んでいます。									
5	該当する 重点プラン (前期基本 計画より)	0 / _ / _ /	大容 大容 大容 大容 大容 大容 大容 大容 大容 大き 大き									
		取組の	評価	評価理由	(H29年度の	の取組内容	『と成果	、影響を与	えた外的な	な要因等)		
6	ついエリスペルエ	a: 順調に進行 b: おおむね順 c: 進行にやや d: 進行に大幅	調に進行遅れ	農の振興については、を行ったほか、市・農業等事業を活用し、農地23筆名に対し国の給付金の対地元から整備要望があっした。有害獣対策としてに、エコ農産物について、菜を生産してもらい、直見者団体が行う森林整備	委員会・府・農 約2haにおい を給、市民やおい た水路やなよ、イノシシ等は、栽培を推 を所を通じて	地中間管理 いて16名の新 を対象とした 水堰等を改作 123頭の捕狐 進し、約10h 5種類の地場	機構の4 たな担い 農業体験 修するた を を を の 囲場 を 野菜	1者で定期的 い手の確保、 検ファームを め、国・府の に柵約1.4kr で栽培支援を	な情報交換の 農業経営サオ 実施し、10名の 輔助金を活用 nの設置を行 を行いました。	の実施、農地中間管理 ペートとして新規就農者1 の受講者がありました。 引し設計業務を実施しまい被害防止に努めまし また、学校給食用に野		
	の現状			参考指標		単位	めざす	実糸	責値	目標値(年度)		
				少 有拍标		甲世	新たな担いた農業体に た農業体に 修するた 獲及びII 協の圃場 湯産野菜 ました。	H28年度	H29年度	日保旭(平皮)		
		都市住民	チングを行った農地面	a	7	54	75	100(各年度)				
		有害獣によ	有害獣による農地(水稲)被害面積				7	1	1	1(各年度)		
		認定農業	者数(国	•大阪版)		件	7	136	149	150 (H31)		

1	取 組	5-1-2	★都	市と農村の交流活	動等に	よる活性	化						
2	主担当課	部名		産業環境部	課名	農とみどり推進課			課長名	浦野 芳博			
3	関係課	商工労政	5工労政課										
4	目 標 (前期基本 計画より)	す。		イベントが市内各所での野菜作りや体験					化し、地域	が活性化していま			
5	該当する 重点プラン (前期基本 計画より)	(北部地域 ②魅力と活	魅力と活力のあふれるまちをつくる 大部地域の活性化) 魅力と活力のあふれるまちをつくる 選用機会の拡大と経済活性化)										
		取組の	評価	評価理由	(H29年度の	の取組内容	『と成果	、影響を与	えた外的な	な要因等)			
6	H29年度末 現在の取組	a: 順調に進行 b: おおむね順覧 c: 進行にややi d: 進行に大幅	遅れ	農業祭の開催、直売た。新たな特産品とし中学校跡地活用につや北部地域へのニースれあう場の提供を行い営の可能性を探るため	て考えていれては、暫か いては、暫か での把握に いました。また	るれんげ米 定的にオー 努めました こ、今後のī	栽培約 トキャン 。市内6 市民農園	6.2haに対っ プ場を開設 箇所の市日 園運営方法	ける補助支持 とし、利用者 と農園の管理	爱を行いました。北辰 から跡地の検討材料 里運営を行い、農とふ			
	の現状			参考指標		単位	めざす	実終	責値	目標値(年度)			
				多行141宗		丰位	方向性	H28年度	H29年度	日保胆(千度)			
		農業祭来場			人	7	40,000	35,000	50,000(各年度)				
		農林産物画	直売所の)利用者数		人	7	101,500	96,881	120,000 (H31)			

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施策	5–1	地域経済を支える産業をまもりそだてる

課長名										
課長名	5-1-3 ★商業の活性化 部名 産業環境部 課名 商工労政課 課長名 徳永 嘉朗									
W/ 12 11	徳永 嘉朗									
とみどり推進課										
が										
:力と活力のあふれるまちをつくる 内容ではか空間の活性化)										
えた外的	な要因等)									
	を改正したところ、事									
値										
H29年度	- 目標値(年度)									
9	累計40(H32)									
2	累計3(H32)									
1	累計3(H32)									
	終しめる材 えた外的 申請要件 新 他 									

1	取 組	5-1-4	企業	舌動への支援									
2	主担当課	部名		産業環境部	課名	商	工労政	課	課長名	徳永 嘉朗			
3	関係課												
4	目 標 (前期基本 計画より)	市内企業	内企業が操業を継続し、発展成長することにより、地域経済が発展しています。										
5	該当する 重点プラン (前期基本 計画より)	該当なし	内 容										
		取組の	評価	評価理由	(H29年度の	り取組内容	と成果	、影響を与	えた外的な要因等)				
6	H29年度末 現在の取組	a:順調に進行 b:おおむね順覧 c:進行にやや d:進行に大幅	調に進行遅れ	企業訪問等を通じて「 進することで、企業活!			府など <i>の</i>)各種支援	制度を周知	し、その利活用を促			
	の現状			参考指標		単位	めざす		責値	目標値(年度)			
						平 四	方向性	H28年度	H29年度				
		巡回訪問での制度周知による各種支援施策の 用件数				件	7	78	88	100 (H32)			

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施策	5–1	地域経済を支える産業をまもりそだてる

1	学識経験者	近畿大学総合社会学部 久 隆浩 教授
2	意見等	・取組成果が一定あがっていることから、総合評価「B」は妥当であると考える。 ・「認定農業者数」はほぼ目標値を達成していること、「都市住民とのマッチングを行った農地面積」は順調に伸びていることから、農業振興の成果は上がっていると考えられる。 ・一方、「農業祭来場者数」「農林産物直売所の利用者数」は減少しており、「都市と農村の交流活動等による活性化」には工夫が必要である。 ・商業活性化は、取組の成果は認められるものの、アウトカムとしての商業活性化がどのように達成されたのかが、見えにくい。

1 施策の概要

<u> </u>	施束の概要											
1	まちの将来像	5	5 都市活力がみなぎる便利で快適なまち									
2	施策	5–2	時代 <i>σ</i>	時代の変化を見通した新しい産業をつくり、そだてる								
3	施策の 方向性 (前期基本 計画より)	業の集 様なビ	時区制度や企業立地促進奨励金などの企業支援施策を活用し、バイオ・ライフサイエンス分野など成長産 その集積や幹線道路沿道等での物流施設など本市の地域特性をいかした企業立地を進めます。また、多 様なビジネスの創出とともに、育成された人材がいきいきと活躍することで、活力がみなぎるまちづくりを進め いきます。									
	評価者等			部名	補職名∙課名	氏 名						
4		評価者(部長級)		産業環境部	部 長	吉田 誠						
4		施策主担当課		産業環境部	商工労政課	_						
		施策	関係課	都市政策課、北部整備推進課								
		5-2-	·1 ★地垣	成経済の成長を先導する事業者 (の創出・育成							
		5-2-	2 ★幹線	は道路沿道での企業立地誘導								
	施策内の 取組	5-2-	3 ★特区制度などを活用した企業立地									
5	(★:重点プ											
	ラン該当取組)											

2 H29年度末現在の施策の現状と課題

施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 総合評価 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。 評価理由(H29年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等) H29年度末現在の施策の主な課題 起業支援について、具体的に起業を見据えてい る学生はかなり少ないことから、まずは起業への関 平成29年度は、産学連携の取組の活性化に向け、「産学連携交流サロン」 課題 心を高める取組が有効と考えられます。また、創 を3回開催し、延べ54人の参加者がありました。前年度の延べ72人から減少し (1) 業実現者数の目標達成に向けて、市内での創業 ましたが、参加をきっかけに大学との事業連携に向けた具体的な検討に入っ 志望者を増やすことが必要です。 た事業者もあります。また、産学連携に係る補助事業を活用された事業者は3 件あり、得られた成果から実用化に向けての取組が引き続き進められていま 幹線道路沿道での企業立地等については、 起業支援については、平成29年度の創業実現者数は88人と前年度の60人 課題 事業化への合意形成や進出事業の目処が から増加しました。また、女性向け起業セミナーの入門編に加え、新たに実践 2 立っていない地域もあります。 編を開催したほか、学生を対象に、ビジネスプラン作成セミナーを2回開催し、 延べ22人の参加者がありました。さらに、市内における創業を促進するため、創業促進事業補助制度の拡充に取り組みました。 東部地区残エリアにおける先行整備区域の 幹線道路沿道での企業立地誘導については、本市南部地域の市街化調整 区域の南目垣・東野々宮地区では、土地区画整理準備組合が検討を進める 課題 地権者の合意形成や参画する民間事業者 まちづくりの取組を支援、業務代行予定者の選定が行われました。一方、平 の確保など区画整理事業実施に向けた協 田・玉島・野々宮地区については、3地区での事業化検討を断念されたため、 議・調整が必要です。 各地区での検討を進められており、野々宮地区は病院建設に向けた検討が 進められておりますが、平田・玉島地区は検討・合意形成が進んでいない状 態です。国道171号沿線の豊川・宿川原地区では、将来の地域のあり方につ 課題 いて議論されています 特区制度などを活用した企業立地については、彩都東部地区では先行エリ **(4**) アで成長産業等の企業集積を目指し、造成工事が進められています。残りの エリアにおいても、産業・業務系を中心としたまちづくりを目指すことや段階的 に整備していくことで地権者の合意形成がなされ、区画整理事業実現に向 け、地権者主体の取組が進められています。 課題 以上から、施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していると判断し、総 (5) 合評価は「B」とします。

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施策	5-2	時代の変化を見通した新しい産業をつくり、そだてる

3 施策内の取組の評価

★:重点プラン該当取組

他東内の り	拟組の計	双組の評価 ★:重点プラン該当取組										
取 組	5-2-1	★地址	或経済の成長を タ	上導する	事業者σ	創出	▪育成					
主担当課	部名		産業環境部	課名	商	工労政	課	課長名	徳永 嘉朗			
関係課												
目 標 (前期基本 計画より)	ます。また	リエイタ―や研究者といった知識・技術を持った人材の活躍で、個性あふれる新しい事業が創出されていた。また、事業者、大学、地元金融機関、行政や市民がそれぞれの強みをいかして取り組むことにより、地 産業の活性化が進んでいます。										
該当する 重点プラン (前期基本 計画より)	いきと活動 ②魅力と活	と活動できるまちをつくる										
	取組の記	評価	評価理由((H29年度0	の取組内容	と成果	、影響を与	えた外的な	な要因等)			
H29年度末 現在の取組	a: 順調に進行 b: おおむね順記 c: 進行にやや	間に進行 遅れ	ました。また、平成28年 たに実践編を実施しま ミナーを実施しました。	F度に実施した。学生 さらに、市	した、女性「 への「起業 内における	向けのノ 」に触れ	門編起業る機会の携	セミナーを糸 星供として、I	継続するとともに、新 ごジネスプラン作成セ			
の現状			参老指標		単位	めざす	実績	責値	目標値(年度)			
					+12	方向性	H28年度	H29年度	口惊鸣(千皮)			
	産学連携スタートアップ支援事業を活用した事業 の実用化数				件	7	1	0	累計10(H28~H32)			
	創業支援さ	ネットワー	一ク等を活用した創業等	実現者数	人	7	60	88	95 (H32)			
	//(41)		/	した高付	件	7	2	2	累計5(H28~H32)			
	取 組 主担 保 関 目 期 ョ コプ基り) ま点期 も コプ まり) 日 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	取組 5-2-1 主担当課 部名 関係課 目標(前期基本計画より) 記述 で表しています。 でである では、	主担当課 部名	取組 5-2-1 ★地域経済の成長を分 主担当課 部名 産業環境部 関係課	取組 5-2-1 ★地域経済の成長を先導する語	 取組 5-2-1 ★地域経済の成長を先導する事業者の関係課 関係課 目標(前期基本計画より) 該当する重点プラン(前期基本計画より) (前期基本計画より) 取組の評価 取組の評価 取組の評価 正産学連携交流サロン」に参加した事業者がたに実践編を実施しました。さらに、市内におけるは進行にやや遅れる。進序にやや遅れる。進行にやや遅れる。進行にやや遅れる。進行に大幅な遅れ 高に関係に進行に大幅な遅れ 本書業者の取組の現状 大学との連携に支援、空き店舗等 本書業補助制度の拡充に取り組みました。さらに、市内におけるは連帯に、本行に大幅な遅れ 本書業補助制度の拡充に取り組みました。で実用化数 創業支援ネットワーク等を活用した創業実現者数と確業活性化プロジェクト促進事業を活用した高付は生産業活性化プロジェクト促進事業を活用した高付は生産業 	取組 5-2-1 ★地域経済の成長を先導する事業者の創出 主担当課 部名 産業環境部 課名 商工労政 関係課 目標(前期基本計画より) 該当する重点プラン(前期基本計画より) (元	取組 5-2-1 ★地域経済の成長を先導する事業者の創出・育成 主担当課 部名 産業環境部 課名 商工労政課 関係課 日標 グリエイターや研究者といった知識・技術を持った人材の活躍で、個性あふきます。また、事業者、大学、地元金融機関、行政や市民がそれぞれの強みをい域産業の活性化が進んでいます。 ①若い世代に選ばれ、高齢者がいきいきと活動できるまちをつくる ②能力と活力のあふれるまちをつくる ②非力と活力のあふれるまちをつくる ②非力と活力のあふれるまちをつくる ②非力と活力のあふれるまちをつくる ②非力と活力のあふれるまちをつくる ②非力と活力のあふれるまちをつくる ②非力と活力のあふれるまちをつくる ②非力と活力のあふれるまちをつくる ②非力と活力のあぶれるまちをできる。 本語の評価 評価理由 (H29年度の取組内容と成果、影響を与またに実践編を実施しました。学生への「起業」に触れる機会の指ました。また、平成28年度に実施した、女性向けの入門編起業たに実践編を実施しました。さらに、市内における創業を促進するためます。 当時の報酬は、「産学連携スを促進するためます。 本語の現状 参考指標 単位 かざす 方向性 方向性 大学との事業連ました。さらに、市内における創業を促進するためます。 本語の現状 単位 がままました。 本語の現状 本語の表述を促進するためまます。 本語の現状 単位 かざす 方向性 大学との事業連ました。さらに、市内における創業を促進するためます。 本語の現状 本語の表述を促進するためまます。 本語の現状 単位 かざす 大部性 大学との事業連ました。 本語の表述を促進するためまます。 本語の表述を促進するためまます。 本語の現状 単位 かざす 大語の性 大部性 大部性	取組 5-2-1 ★地域経済の成長を先導する事業者の創出・育成 主担当課 部名 産業環境部 課名 商工労政課 課長名 関係課 クリエイターや研究者といった知識・技術を持った人材の活躍で、個性あふれる新しいます。また、事業者、大学、地元金融機関、行政や市民がそれぞれの強みをいかして取域産業の活性化が進んでいます。			

		受品・問音	130							
取 組	5-2-2	★幹絲	 泉道路沿道での1	L業立地	誘導					
主担当課	部名		都市整備部	課名	都	市政策	課	課長名	福井 龍也	
関係課										
目 標 (前期基本 計画より)		を通利便性など本市の地域特性を活かし、幹線道路沿道において、これからの時代にふさわしい物流など 企業立地が進んでいます。								
該当する 重点プラン (前期基本 計画より)	O / _ · · · · · ·									
	取組の	評価	評価理由	(H29年度0	り取組内容	と成果	:、影響を与	えた外的な	(要因等)	
H29年度末	b:おおむね順i c:進行にややi	調に進行遅れ	は、土地区画整理準備 れました。 平田・玉島・野々宮地 められており、野々宮 区は、検討・合意形成 また、国道171号沿線	開組合が検 区について 地区では、 が進んでい	討を進める は、3地区 病院建設に ない状態で	まちづく での事業 向けた です。	りの取組を とと検討を 検討を進め	支援、業務 断念され、名	代行予定者を選定さ 各地区での検討を進 ますが、平田・玉島地	
の現状			会		単位	めざす		責値	目標値(年度)	
			少 有相保		半四	方向性	H28年度	H29年度	日保胆(千皮)	
	主 関目前該重前当課目期当プ基リンまのまのまの中の中の末組	主担当課 部名 関係課 日標(前期基本計画より) 該当する 重点プラン(前期より) 取組の 中29年度末 現在の取組 部名 の企業立 ・ (雇用機会・ (雇用機会・)を注意を行った。 (連続によれ順や・)を注意を行った。 (は、進行に大幅・)を注意を行いた。 (は、進行に大幅・)を注意を行いた。 (は、進行に大幅・)を注意を行いた。 (は、進行に大幅・)を注意を行いた。 (は、進行に大幅・)を注意を行いた。 (は、進行に大幅・)を注意を対します。 (は、単位・)を注意を注意を対します。 (は、単位・)を注意を対します。 (は、単位・)を注意を注意を対します。 (は、単位・)を注意を注意を注意を対します。 (は、単位・)を注意を注意を注意を注意を注意を注意を注意を注意を注意を注意を注意を注意を注意を	主担当課 部名 関係課 日標(前期基本計画より) 該当する 重点プラン(前期基本計画より) 取組の評価 H29年度末 現在の取組 部名 の企業立地が進ん ②魅力と活力のあ(雇用機会の拡大	主担当課 部名 都市整備部 関係課 目標(前期基本計画より) 該当する 重点プラン (前期基本計画より) 取組の評価 取組の評価 本市南部地域の広境に、土地区画整理準値に、土地区画整理準値に、土地区画整理準値に、土地区画整理準値に、土地区画整理準値に、土地区画整理準値に、土地区画整理準値に、土地区画整理準値に、土地区画整理準値に、土地区画整理準値に、土地区画を理準値に、土地区画を理準値に、土地区画を理準値に、土地区画を理準値に、土地区画を理準値に、土地区画を理準値に、土地区画を理準値に、土地区画を理準値に、土地区画を理準値に、土地区画を理準値に、土地区画を理準値に、土地区画を理準値に、土地区画を理準値に、土地区画を理準値に、土地区画を理準値に、また、国道171号沿線に進行に、大幅な遅れ、にいます。	主担当課 部名 都市整備部 課名 関係課 日 標 (前期基本 計画より) 該当する 重点プラン (雇用機会の拡大と経済活性化) (雇用機会の拡大と経済活性化) 取組の評価 評価理由(H29年度のおより、野々宮地区では、)をは、土地区画整理準備組合が検れました。平田・玉島・野々宮地区では、)をは、土地区画整理準備組合が検れました。平田・玉島・野々宮地区では、)をいれており、野々宮地区では、)をは、人様計・合意形成が進んでいまた、国道171号沿線の豊川・宿れています。	主担当課 部名 都市整備部 課名 都 関係課 目標(前期基本計画より) 該当する 重点プラン (前期基本計画より) 取組の評価 取組の評価 本市南部地域の広域幹線沿道の市街化部は、土地区画整理準備組合が検討を進めるれました。 平田・玉島・野々宮地区では、病院建設に区は、大きのといるが、野々宮地区では、病院建設に区は、検討・合意形成が進んでいない状態でまた、選在の取組の現状 ### 129年度末 は、土地区画整理準備組合が検討を進めるれました。 平田・玉島・野々宮地区では、病院建設に区は、検討・合意形成が進んでいない状態でまた、国道171号沿線の豊川・宿川原地区にないます。	主担当課 部名 都市整備部 課名 都市政策 関係課 日標 (前期基本 計画より)	主担当課 部名 都市整備部 課名 都市政策課 関係課 日標(前期基本計画より) 該当する 重点プラン(前期基本計画より) 取組の評価 取組の評価 P価理由(H29年度の取組内容と成果、影響を与した、主人の表別では、土地区画整理準備組合が検討を進めるまちづくのの取組をおました。平田・玉島・野々宮地区では、病院建設に向けた検討を進められており、野々宮地区では、病院建設に向けた検討を進められており、野々宮地区では、病院建設に向けた検討を進められており、野々宮地区では、病院建設に向けた検討を進められており、野々宮地区では、病院建設に向けた検討を進められており、野々宮地区では、病院建設に向けた検討を進められており、野々宮地区では、病院建設に向けた検討を進められており、野々宮地区では、病院建設に向けた検討を進められており、野々宮地区では、病院建設に向けた検討を進められており、野々宮地区では、病院建設に向けた検討を進めるようでは、検討・合意形成が進んでいない状態です。また、国道171号沿線の豊川・宿川原地区については、将来のれています。 参考指標 学者指標	主担当課 部名 都市整備部 課名 都市政策課 課長名 関係課 関係課 受通利便性など本市の地域特性を活かし、幹線道路沿道において、これからの時代にの企業立地が進んでいます。 内の企業立地が進んでいます。	

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施策	5-2	時代の変化を見通した新しい産業をつくり、そだてる

1	取 組	5-2-3	★特[区制度などを活用	した企	業立地				<u> </u>	
2	主担当課	部名		産業環境部	課名	商	工労政	課	課長名	徳永 嘉朗	
3	関係課	北部整備	推進課								
4	目 標 (前期基本 計画より)			美立地促進奨励金な。 のビジネスマッチンク							Š
5	該当する 重点プラン (前期基本 計画より)	O / - / - / - / - / /	カと活力のあふれるまちをつくる 用機会の拡大と経済活性化)								
		取組の記	評価	評価理由	(H29年月	度の取組内容	『と成果	、影響を与	えた外的な	は要因等)	
6	H29年度末 現在の取組	a:順調に進行 b:おおむね順記 c:進行にやや d:進行に大幅が	周に進行 遅れ	彩都東部地区についが進められています。 すことや段階的に整備 地権者主体の取組が	また、残り 前していく)のエリアにお ことで地権者	sいても、	産業・業務	系を中心と	したまちづくりを目	指
	の現状			参考指標		単位	めざす		責値	目標値(年度)	
				2 274			方向性	H28年度	H29年度	口惊心(十岁)	
		研究施設、 数	設、物流施設等の新規	件	7	5	2	累計10(H28~H3	32)		

4 学識経験者の意見

1	学識経験者	近畿大学総合社会学部 久 隆浩 教授
2	意見等	・取組成果が一定あがっていることから、総合評価「B」は妥当であると考える。 ・起業支援について、創業実現者数が増加するなど成果があがっているが、産学連携の取組には時間がかかっており、今後の展開に期待したい。 ・土地区画整理事業や彩都についても基盤整備に時間がかかるものであるが、企業誘致等今後の成果に期待したい。

1 施策の概要

ė	心来の多		1							
1	まちの将来像	5	都市活力	」がみなぎる便利で快適なま	5					
2	施策	5–3	就労支	を援と働きやすい職場	易づくりをすすめる					
3	施策の 方向性 (前期基本 計画より)	働く意欲はあるが就労にあたり困難な要因を抱える人(就職困難者)や不安定な就労を余儀なくされている 人の能力と希望に応じた就労を支援する施策に取り組みます。また、市内の事業所において、働く人々が安 心して、いきいきと働くことができる職場づくりを促進する施策に取り組みます。								
				部名	補職名•課名	氏 名				
4	評価者等	評価者(部長級)		産業環境部	部 長	吉田 誠				
7		施策主担当課		産業環境部	商工労政課	_				
		施策	関係課	人権・男女共生課、相談支援課、生活福祉課、障害福祉課、こども政策課						
		5-3-	·1 ★就労	分の支援						
		5-3-	2 ★働き	! ★働きやすい職場づくりの推進						
	施策内の 取組									
5	(★:重点プ									
	ラン該当取 組)									

2 H29年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B 施策の方向性に沿っておおむね順調 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。							
	評価理由(H29年度の主な成果	、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		H29年度末現在の施策の主な課題						
	職面接会や求職者の職業能 職面接会については、全参加 でしたが、開催時期変更による	内関係課・関係機関が連携し、合同就 力向上の支援等を行いました。合同就 事業所の人材確保にはつながりません 3参加対象者の拡大等により、就職者	課題	市内中小企業等の人材確保の支援や、求職者の職業能力の向上を図る必要があります。						
	の支援については、介護職員 開催や再就職支援助成金制 力の向上を支援しました。また 行いましたが、就職サポート事	41人に増加しました。職業能力の向上初任者研修や医療事務基礎講座等の度の実施により、就職困難者の職業能、庁内関係課や関係機関と情報共有を業における各課・機関と連携したケー年度の13件から7件に減少しました。	課題	各就職困難者の状況に応じた就労支援をす すめるため、庁内関係課や関係機関の連携 が求められています。						
2	働きやすい職場づくりの推進で豊かな働き方の実現を図る 進事業所認定制度を創設し、	一度の13円から7円に減少しました。 については、市内で働く勤労者の健康 ことを目的に、働きやすい職場づくり推 事業の周知・啓発を行ったところ、2事 した。また、さらに取組を推進するた	課題	H29年度から働きやすい職場づくり推進事業 所認定事業をスタートし2事業者の認定につ ながりましたが、さらに多くの事業所へ取組 を促進する必要があります。						
	め、新たなインセンティブを検 地域づくりや働きやすい職場 実施したところ、茨木市・高槻 催している労働に関するセミナ 大阪府総合労働事務所、茨オ	計しました。誰もが働きやすい活力ある づくりの促進を図るため啓発セミナーを 市・摂津市・吹田市・島本町が連携し開 ーでは参加者数が伸び悩みましたが、 労働基準協会と連携したセミナーでは	課題	労働環境の改善等の啓発を促進するため、 各種セミナーの参加者数を増加させる必要 があります。						
	定員を超える申込がありました 以上のことから、施策の方向・ ると判断し、総合評価は「B」と	、 生に沿っておおむね順調に進行してい	課題							

1	まちの将来像	5 都市活力がみなぎる便利で快適なまち								
2	施策	5-3 就	労支援	と働きやすい職場	づくりをす	すめる				
3	施策内の『	取組の記	——— 平価						* :	重点プラン該当取組
1	取 組	5-3-1	★就:	労の支援						
2	主担当課	部名		産業環境部	課名	商	工労政	課	課長名	徳永 嘉朗
3	関係課	人権•男女	丈 共生語	果、こども政策課、生活	5福祉課、	相談支援調	果、障害	福祉課		
4	目 標 (前期基本 計画より)	若者、女市民や学	、性、障 学生のF	害者などが、その能え 作内における就労と、	りと希望に 市内中小公	応じた就労 企業等の人	を実現 対確保	しています とが促進され	-。 れています。	,
5	該当する 重点プラン (前期基本 計画より)			ばれ、高齢者がいき まちをつくる	内容子育で	て世代(女性	生)の就	労•創業支	援	
		取組の	評価	評価理由	(H29年度)	の取組内容	『と成果	、影響を与	えた外的7	な要因等)
6	H29年度末 現在の取組 の現状	a: 順調に進行 b: おおむね順 c: 進行に大幅 d: 進行に大幅	調に進行遅れ	合同就職面接会のまる参加対象者の拡え 護職員初任者研修や 職困難者の職業能力が、就職サポート事業 13件から7件に減少し	大等により、 医療事務基 の向上を支 における各	就職者数に 基礎講座等に 援しました。	は、平成の開催。 の開催。 。 庁内 陽	28年度の3 や再就職支 関係課や関 ケース検記	1人から41 <i>月</i> 接助成金制 係機関と情 付会議の件	川度の実施により、就 報共有を行いました
	の現仏			参考指標		単位	めざす 方向性		績値 	目標値(年度)
							기비도	H28年度	H29年度	
		就職サポー	ート事業	を利用して就職した人		人	7	76	74	110(H32)
1	取組	5-3-2	★働:		りの推進	É				
2	主担当課	部名	A 120	産業環境部	課名	_	工労政	:課	課長名	徳永 嘉朗
3	関係課									
4	目標(前期基本計画より)	働く人々	の権利	」が守られるとともに、	雇用が安気	定し、安心し	ていき	いきと働い	ています。	
5	該当する 重点プラン (前期基本 計画より)			ばれ、高齢者がいき まちをつくる		が選択肢を で世代の雇 家庭生活を	用機会	を増やす耳	対組、 づくりの促む	進
		取組の	評価	評価理由	(H29年度	の取組内容	『と成果	、影響を与	えた外的な	な要因等)
	H29年度末 現在の取組	o:おおむね順調に進行 セミナーでは参加有数か伸び悩みましたか、大阪府総合労働事務所、次不労働基準筋会と連 s:進行にやや遅れ 携したセミナーでは定員を超える申込がありました。								
6	現在の取組		調に進行 遅れ	セミナーでは参加者数	女が伸び悩	みましたが、	大阪府			
6		b:おおむね順 c:進行にやや	調に進行 遅れ	セミナーでは参加者数	女が伸び悩	みましたが、	大阪府	総合労働	事務所、茨 <i>z</i> 績値	
6	現在の取組	b: おおむね順 c: 進行にやや d: 進行に大幅	調に進行 遅れ な遅れ 	セミナーでは参加者数携したセミナーでは定	女が伸び悩	みましたが、 6申込があり 	, 大阪府 ました。 めざす	「総合労働 [」] 実績	事務所、茨 <i>z</i> 績値	木労働基準協会と連
6	現在の取組	b: おおむね順 c: 進行にやや d: 進行に大幅	調に進行 遅れ な遅れ 	セミナーでは参加者数 携したセミナーでは定 参考指標	女が伸び悩	みましたが、 申込があり 単位	大阪府ました。	「総合労働 [」] 実績 H28年度	事務所、茨z 績値 H29年度	大労働基準協会と連 目標値(年度)

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施策	5-3	就労支援と働きやすい職場づくりをすすめる

1	学識経験者	近畿大学総合社会学部 久 隆浩 教授
2	意見等	・取組成果が一定あがっていることから、総合評価「B」は妥当であると考える。 ・社会的関心の高い働き方改革については、セミナー参加者が増加するなど、成果がうかがえる。 ・働き方の選択肢を増やす取組とその成果についてが見えない。

1 施策の概要

<u> </u>	肥泉の似安 ニュー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・										
1	まちの将来像	5	都市活力	」がみなぎる	便利で快適	なまな	ā				
2	施策	5–4	地域特	持性をいっ	かした都	市つ	うくりを計画	前的にすす	める		
3	施策の 方向性 (前期基本 計画より)	を図り	広域的な都市基盤施設の充実を図るとともに、計画的な市街地整備や地域特性をいかした土地利用の誘導を図り、強み(ポテンシャル)をいかした整備を推進します。また、住、働、学、憩という都市において行われる 機能を備えた都市づくりを進め、活力と魅力の増進に取り組みます。								
	評価者等			音	部 名		補職名	•課名	氏	名	
4		評価者(部長級)		都市	市整備部		部 長		岸田茂樹		
4		施策主担当課		都市	市整備部		都市政策課		-	_	
		施策	関係課	商工労政課、審査指導課、北部整備推進課、市街地新生課、道路交通課、下水道施設課							
		5-4-	1 計画的	かな都市基盤	整備や市街均	也整備					
		5-4-	-2 ★彩者	★彩都の都市づくり							
	施策内の 取組	5-4-	3 適切な	適切な開発や建築物・土地利用の誘導							
5	(★:重点プ										
	ラン該当取組)										

H29年度末現在の施策の現状と課題

合評価は「B」とします。

施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 総合評価 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。 評価理由(H29年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等) H29年度末現在の施策の主な課題 平成29年度は、東芝工場跡地でのスマートコミュニティの事業実施に向け、 東芝工場跡地」において用途地域や地区計画などの都市計画変更等を行 課題 都市計画変更にあたっては関係者の理解が いました (1) 必要です。 本市南部地域の広域幹線沿道の市街化調整区域において、南目垣・東 野々宮地区については、土地区画整理準備組合が検討を進めるまちづくりの 取組を支援し、業務代行予定者を選定されたことから、平成30年度末の区域 区分等の都市計画変更等に向け、関係機関との協議を進めました 平田・玉島・野々宮地区については、3地区での事業化検討を断念され、各 広域幹線沿道の市街化調整区域では、事 課題 地区での検討を進められており、野々宮地区では、病院建設に向けた検討を 業化への合意形成や進出事業の目処が 2 進められております。また、国道171号沿線の豊川・宿川原地区については、 立っていない地域もあります。 将来の地域のあり方について、議論されています 彩都西部地区は、平成29年度末現在、約8,600人の方が居住し、またライフ サイエンスパーク全区画で施設の立地が決定しており、彩都バイオイノベー 彩都東部地区地権者協議会で策定された「全体 ション施設(彩都バイオインキュベータ、彩都バイオヒルズセンター、彩都バイ 開発計画案」において示されている、先行整備予 課題 オイノベーションセンター)の入居率は、年間を通じてほぼ100%の状況で稼 定地区の地権者の合意形成や具体的な土地利 動しています。また、中部地区では、新たに大型物流施設1施設が稼動する 用計画の検討など、区画整理事業の実現に向け など企業立地が進んでいます た取組みを進める必要があります。 東部地区の2地区の先行エリアでは、民間事業者による土地区画整理事業 が進められており、本市では、山麓線4工区(府道余野茨木線~府道茨木亀 彩都バイオイノベーション施設の入居者が、 岡線間)と谷山水路の整備を進めています。残りのエリアについては、地権者 新たに彩都地区をはじめ、市内に拠点を置 課題 で構成する「彩都東部地区地権者協議会」において「彩都東部地区全体開発 き、円滑な企業活動が行えるよう、支援に努 **(4**) 計画案」が策定され、この全体計画案を基に先行整備予定地区の土地区画 める必要があります。 整理準備組合の立ち上げに向けた取組みを進めています 開発指導要綱に基づく指導や都市計画制度等の活用により、市街化調整 区域における無秩序な市街地の拡大を抑制するとともに、市街化区域におい 細街路計画に沿った整備については、法的 ては良好な生活環境の整備に努めるなど、適切な土地利用の誘導を図って 課題 な強制力が無いため、開発者等に協力を得 います (5) ることができない場合があります。 以上から、施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していると判断し、総

1	まちの将来像	5 都	市活力	」がみなぎる便利で	快適なます	ち					
2	施策	5-4 地	域特性	生をいかした都市づ	 くりを計画	的にすす	める				
3	 施策内の	取組の記	平価						★ ::	重点プラン該当取組	
1	取組	5-4-1	計画	的な都市基盤整位	備や市街	地整備					
2	主担当課	部名		都市整備部	課名	都	市政策	課	課長名	福井 龍也	
3	関係課	市街地新	生課								
4	目 標 (前期基本 計画より)	また、地	域の実	業者と連携し、広域的 情に応じて、適宜適り れています。						にた計画的な市街	
5	該当する 重点プラン (前期基本 計画より)	該当なし			内 容						
		取組の	評価	評価理由	(H29年度0	の取組内容	『と成果	、影響を与	えた外的な	(要因等)	
6	H29年度末 現在の取組	a: 順調に進行 b: おおむね順 c: 進行にやや d: 進行に大幅:	調に進行遅れ	東芝工場跡地でのスマー都市計画変更等を行いま 本市南部地域の広域幹 備組合が検討を進めるまち 等の都市計画変更等に向 平田・玉島・野々宮地区 宮地区では、病院建設に「態です。 また、国道171号沿線の皇	した。 線沿道の市街 らづくりの取組 け、関係機関。 については、3: 向けた検討を通	化調整区域にを支援し、業務との協議を進地区での事業 進められており	こおいて、	南目垣・東野 定者を選定さ と断念され、各 平田・玉島地	々宮地区につれたことから、 ³ ・地区での検託 区は、検討・合	いては、土地区画整理準 平成30年度末の区域区分 を進められており、野々 意形成が進んでいない状	
	の現状			参考指標		単位	めざす	実網	漬値	目標値(年度)	
				多有相保		十四	方向性	H28年度	H29年度	口惊胆(千皮)	
1	取組	5-4-2	→ 平	都の都市づくり							
2	主担当課	部名	A 42	都市整備部		課名 北部整備推進課 課長名 岡田 [
3	関係課		 課 道記			THE PERSON NAME AND POST OF TH					
4	目標(前期基本		第工労政課、道路交通課、下水道施設課 東部地区の都市づくりについては、民間の活力等を活用しながら段階的に進められています。 西部・中部地区では良好な住環境等の維持形成と企業等の誘致が進められています。								
	計画より)										
5		西部・中 ②魅力と注	部地区		等の維持形	成と企業等	の誘致	が進められ	1ています。 		
5	計画より) 該当する 重点プラン (前期基本	西部・中 ②魅力と注	部地区 舌力のな 会の拡力	では良好な住環境等 あふれるまちをつくる 大と経済活性化)	等の維持形成 (内) 国土前	成と企業等	どスなど	が進められ	います。 をいかした <u>。</u>	企業等の誘致促進	
5	計画より) 該当する 重点プラン (前期基より) H29年度末	西部・中 ②魅力と注 (雇用機会	部地区 舌力のなが 評価	では良好な住環境等 あふれるまちをつくる たと経済活性化) 評価理由 西部地区「は、平成29 ⁶ 立地が決定しており、彩	等の維持形の 内容 国土車 国土車 (H29年度の 年度ボインセットでは、 年度では、 年本のシーンでは、 にただされ、 にたださい。 にたださい。 にいるでは、 に	成と企業等 由へのアクー か取組内を 約8,600人の施門のでは、道次区、地域のでは、一次では、100円のでは、100円	をの誘致として、 として、 として、 として、 が彩年で、 は、 動よりと会が彩を用います。 とその は、 動きのは、 動きのは、 動きのは、 は、 とく、 は、 とく、 は、	が進められば、 地域特性・ 、	れています。 をいかした テえた外的な プサイエンス は100%のでい 理事業が進めでい 理事業が進めでし 関連を連部地区 が進んの立 がある。	企業等の誘致促進 で要因等) パーク全区画で施設の都バイオヒルズセン況で稼動しています。まいます。られており、本市では、います。残りのエリアにつ全体開発計画案」が策	
	計画より) 該当する 重点プラン (前期より) H29年度取 現在の取組	西部・中②魅力と次(雇用機会・取組の)	部地区 舌力のなが 評価	では良好な住環境等 あふれるまちをつくる たと経済活性化) 評価理由 西部地区「は、平成29 ² 立地が決定しており、彩 ター、彩都バイオイノベー た、東部地区の2地区の次 東麓線4工区(府道余年 いては、地権者で構成す 定され、この全体計画案	等の維持形の 内容 国土車 国土車 (H29年度の 年度ボインセットでは、 年度では、 年本のシーンでは、 にただされ、 にたださい。 にたださい。 にいるでは、 に	成と企業等 由へのアクー か取組内を 約8,600人の施門のでは、道次区、地域のでは、一次では、100円のでは、100円	をの誘致として、 として、 として、 として、 が彩年で、 は、 動よりと会が彩を用います。 とその は、 動きのは、 動きのは、 動きのは、 は、 とく、 は、 とく、 は、	が進められば、 地域特性・ 、	れています。 をいかした 「フサイエンス 「フサイエンス 「の%の状 地が進んで 地が進んが進んで と を に な に な に な な な な な な な な	企業等の誘致促進 で要因等) パーク全区画で施設の都バイオヒルズセン況で稼動しています。まいます。られており、本市では、います。残りのエリアにつ全体開発計画案」が策	
	計画より) 該当する 重点プラン (前期より) H29年度取 現在の取組	西部・中②魅力と次(雇用機会・取組の)	部地区 舌力の拡力 ではれて にれてれて 調運な	では良好な住環境等 あふれるまちをつくる 大と経済活性化) 評価理由 西部地区「は、平成29 ² 立地が決定してオイノベー た、東部地区の2地区の2地区の2 中部地区の2地区の作道余4 以では、地権者で構成す 定され、この全体計画案 進めています。	等の維持形の 内容 国土車 国土車 (H29年度の 年度ボインセットでは、 年度では、 年本のシーンでは、 にただされ、 にたださい。 にたださい。 にいるでは、 に	成と企業等 由へのアクー か8,600人のアクー 約8,600人ののション入設に関する。 に設り、地震民族大地に対して、道路とのでは、 ので、一般のでは、 ので、一般ので	をの誘致とと、との表を表を表を表して、これでは、一般の表を表を表を表を表を表して、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは	が進められた。 地域特性 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	れています。 をいかした 「フェイス、のがした」 「フェイス、のでいる。 はいが進んでいる。 はのでいる。	企業等の誘致促進 で要因等) パーク全区画で施設の 都バイオセルズセン 況で稼動しています。ま います。 られており、本市では、 います。残りのエリアにつ 全体開発計画案」が策 、上げに向けた取組みを	
	計画より) 該当する 重点プラン (前期より) H29年度取 現在の取組	西部・中 ②魅力と次(雇用機会 取組の 高・順調に進行順大を対象 は、進行に大幅 は、進行に大幅	部地区 話力のなける が で で で で で で で で で で で で	では良好な住環境等あかれるまちをつくるたと経済活性化) 評価理由 西部地区「は、平成29位立地が決定しており、彩ター、彩都バイオイノベーた、東部地区の2地区の2地区の5時間全球の作りいては、この全体計画案は、この全体計画案とされ、この全体計画案進めています。	等の維持形の 内容 国土車 国土車 (H29年度の 年度ボインセットでは、 年度では、 年本のシーンでは、 にただされ、 にたださい。 にたださい。 にいるでは、 に	成と企業等 カヤクーク・カリング・カリング・カリング・カリング・カリング・カリング・カリング・カリング	をのたった。 大き	が進められた。 地域特性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	でいます。 をいかした たた外的 が (フュだり%の (フュぼ100%の 地が悪が地でいめ 地が悪が地でいめ 地が悪が地でいめ にが地でいる でが進いでいる でが進いでいる でが進いでいる でが重います。 では では では では では では でれる でいる にいる にいる にいる にいる にいる にいる にいる に	企業等の誘致促進 で要因等) パーク全区画で施設の都バイオヒルズセン況で稼動しています。まかます。られており、本市では、かます。残りのエリアにつ全体開発計画案」が策ら上げに向けた取組みを 目標値(年度)	

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施策	5-4	地域特性をいかした都市づくりを計画的にすすめる

1	取 組	5-4-3	適切	な開発や建築物・	土地利用	用の誘導				<u> 主ボノノノ </u>		
2	主担当課	部名		都市整備部	課名	都	市政策	課	課長名	福井 龍也		
3	関係課	審査指導	課									
4	目 標 (前期基本 計画より)	_ , , _	地域の土地利用形態の変化を見通した適宜適切な土地利用誘導や開発指導により、良好な生活環境や 業の操業環境の形成が進められています。									
5	該当する 重点プラン (前期基本 計画より)	該当なし			内容							
		取組の	評価	評価理由	(H29年度の	の取組内容	と成果	、影響を与	えた外的な	な要因等)		
6	H29年度末 現在の取組	a:順調に進行 b:おおむね順 c:進行にやや d:進行に大幅	調に進行遅れ	開発指導要綱に基す 序な市街地の拡大を打るなど、適切な土地利 なお、「東芝工場跡は 目垣・東野々宮」にお との協議を進めました	印制するとと 用の誘導を 地」において いては、平	もに、市街 図っていま ては、用途均	化区域 さす。 也域やtt	においては 也区計画など	良好な生活	S環境の整備に努め 画変更等を行い、「南		
	の現状			参考指標		単位	めざす	実終	責値	目標値(年度)		
				多行1日保		- 平位	方向性	H28年度	H29年度	口惊鸣(千皮)		
		都市計画決定及び変更等案件				件	\rightarrow	2	4			
		開発行為等	等連絡協	協議会の開催		回	\rightarrow	4	2			
		細街路計画	画に沿っ	た道路の整備件数の	割合	%	7	74	65	90(H30)		

4 学識経験者の意見

1	学識経験者	近畿大学総合社会学部 久 隆浩 教授
2	意見等	・取組成果が一定あがっていることから、総合評価「B」は妥当であると考える。 ・面的整備は時間を要するが、いずれの地区においても一定の進捗があり、評価できる

1 施策の概要

<u> </u>	他束の似安										
1	まちの将来像	5	都市活力	」がみなぎる便利で快適なま	ち						
2	施策	5–5	良好で	5住みよい環境・景観	うづりをすすめる						
3	施策の 方向性 (前期基本 計画より)	計画の美しい)共有、ルー 街並みが駅 录地の適正	者等による開発や施設の管理が良好な環境を形成することを基本に、住みよいまちを創るため、「、ルールの作成、適正な運用と適時適切な見直し、住民への支援などを行い、快適な住環境やみが魅力的で将来にわたり住み続けたいまちをめざします。 の適正な保全と緑化を推進し、自然とのふれあいやみどりをいかしたうるおいのある環境づくりを							
				部 名 補職名・課名 氏 名							
評価者(部長級) 都市整備部 部 長					岸田茂樹						
4	計画名寺	施策	主担当課	都市整備部	邓市整備部 都市政策課						
		施策	関係課	農とみどり推進課、審査指導課	、居住政策課、建築課、公園緑	地課					
		5-5-	1 快適で	で良好な住環境の形成							
		5-5-	2 都市に	こおけるみどりの形成							
	施策内の 取組	5-5-	3 ★良好	子な景観の保全と創造							
5	(★:重点プ	5-5-	4 良好な	住宅ストックの形成							
	ラン該当取組)	5-5-	5 公的住	E宅の改善・充実							

H29年度末現在の施策の現状と課題

A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 総合評価 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。 評価理由(H29年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等) H29年度末現在の施策の主な課題 平成29年度は、良好な住環境を創出するため、細街路の計画路線に接して 課題 さくらまつり実施事業の新たな事業展開につ 計画される、開発許可、道路位置指定、建築行為等に対し、細街路計画に沿った整備の必要性について開発者等に十分説明し、協力を得て、用地費 (1) いて検討する必要があります。 の補償、工事費等の補助を行い整備を進めました また、地区の特性に応じた魅力ある景観形成に努めるとともに、良好な居住 環境を保全するため、景観条例及び景観計画に基づき、建築行為等につい て協議、指導等を行い、屋外広告物についても、府条例に基づき許可事務を 課題 |魅力ある景観づくりに向け、具体的な方策等 行いました。 **(2**) を検討が必要です。 緑の基本計画で定めた目標や取り組み方針、施策に従い、緑の将来像の 実現に向けて次の事業に取り組みました さくらまつりの事業展開については、観光部局等と課題等を整理し、継続し た協議を行っています。また、元茨木川緑地の再整備については、関係各課 居住マスタープランにおける住宅・住環境に と協議を行いました。 課題 |係る施策の検討にあたっては、庁内各部署 居住マスタープランの策定に向け、現状・課題整理や意向調査、分析を行 の課題を共有し、横断的に取り組む体制を 3 いました。また、居住施策推進委員会を設置し、検討内容について意見を伺 構築する必要がある。 いました 住まいの安全を確保するために住宅の耐震診断、耐震改修費用の補助を 行い、耐震化率の向上に努めるとともに、マンションの良好な居住環境を確保 厳しい財政状況のもと、、維持管理コストの するため、マンションの適正管理等に関する情報を分譲マンションセミナー等 課題 縮減につなげるため、ストックの長寿命化を で、マンションの区分所有者等に周知・啓発を行いました。また、良好な住宅 **4**) ストックを形成するため、長期優良住宅の認定を行いました。 図る必要があります。 市営住宅の耐震化については、二次耐震診断結果に基づき、耐震改修が 必要となった7棟のうち平成28年度に3棟、平成29年度に4棟の耐震化及び 長寿命化改善工事を実施し、全ての市営住宅の耐震化を実施し、来年度以 降に向けて4棟の長寿命化改善設計を行いました。 課題 以上から、施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していると判断し、総 **(5)** 合評価は「B」とします。

1	まちの将来像	5 都	市活力	」がみなぎる便利で	快適なま	5				
2	施策	5-5 良	:好で住	みよい環境・景観	づくりをす [.]	すめる				
3	施策内の』	取組の記	评価						★ :	 重点プラン該当取組
1	取 組	5-5-1	快適	で良好な住環境の	の形成					
2	主担当課	部名		都市整備部	課名	審	查指導	課	課長名	太田 薫
3	関係課	都市政策	課							
4	目 標 (前期基本 計画より)	市民•事	耳業者 ・ 征	行政の協働により、住	環境の保全	と向上が	図られて	ています。		
5	該当する 重点プラン (前期基本 計画より)	該当なし	該当なし 内							
		取組の	評価	評価理由	(H29年度(の取組内容	と成果	、影響を与	えた外的な	(要因等)
6	H29年度末 現在の取組 の現状	a: 順調に進行 b: おおむね c: 進行にや d: 進行に大幅	i調に進行)遅れ	良好な住環境を創出 指定、建築行為等に対し、協力を得て、用地 また、「東芝工場跡は ため、地区計画の内名	対し、細街置 費の補償、 也」において	各計画に沿 工事費等の 、スマートコ	った整備 補助を コミュニ	備の必要性に 行い整備を ティの考え力 定を行いま	について開 ・進めました。 すに基づく都 した。	0
	の現状			参考指標		単位	めざす 方向性	実 H28年度	責値 H29年度	目標値(年度)
		細街路計	画に沿っ	った道路の整備件数の	た道路の整備件数の割合		7	74	65	90(H30)
1	取 組	5-5-2	都市	におけるみどりの	形成					
2	主担当課	部名		建設部	課名	公	園緑地	課	課長名	古谷 裕二
3	関係課	農とみどり)推進課	į į						
4	目 標 (前期基本 計画より)	都市に	おける縁	k空間の再整備や充写	実が進み、	市民の利用	見を促進	をできる都市	万空間が形	成されています。
5	該当する 重点プラン (前期基本 計画より)	該当なし			内容					
		取組の	評価	評価理由	(H29年度(の取組内容	ドと成果	:、影響を与	えた外的な	要因等)
6	H29年度末 現在の取組	a: 順調に進行 b: おおむね順 c: 進行にやれ d: 進行に大幅	i調に進行 遅れ	緑の基本計画で定め 事業に取り組んで参り さくらまつりの事業展 す。 若園公園バラ園の苗 公園施設については 元茨木川緑地の再整	ました。 開について 木更新等を 、長寿命化	は、観光部 進めました。 計画に沿っ	局等と誤 、 て5公園	果題等を整理 園の遊具等(理し、継続し の更新を行	た協議を行っていま
	の現状			参考指標		単位	めざす 方向性	実 H28年度	責値 H29年度	目標値(年度)

%

%

19

25

37.5

50

100(H31)

100(H31)

長寿命化計画に基づき老朽化した遊戯施設の更 新等、再整備を行なった公園の割合

若園公園バラ園の再整備を行った面積の割合

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施策	5–5	良好で住みよい環境・景観づくりをすすめる

									X :	重点フラン該当取組		
1	取組	5-5-3	★ 良	好な景観の保全と	≤創造							
2	主担当課	部名		都市整備部	課名	都	市政策	課	課長名	福井 龍也		
3	関係課	審査指導	課									
4	目 標 (前期基本 計画より)		市民・事業者・行政の協働により、美しい景観は市民共通の財産として、創る・守る・育てるという意識の共 と実践が進んでいます。									
5	該当する 重点プラン (前期基本 計画より)	②魅力と活 (まちなか		らふれるまちをつくる 活性化)	内 JR茨木 容 な景観		木市駅)	割辺におい	て、市の顔	頁にふさわしい良好		
		取組の	評価	評価理由	(H29年度の	の取組内容	と成果	、影響を与	えた外的な	な要因等)		
6	シロエマティス小丘	a: 順調に進行 b: おおむね順 c: 進行にやや d: 進行に大幅	調に進行	地区の特性に応じた ため、景観条例及び また、屋外広告物に	景観計画に	基づき、建築	築行為等	等について	劦議、指導	竟等を保全・育成する 等を行いました。		
	の現状			参考指標		単位	めざす	実統	責値	目標値(年度)		
				多行1日保		辛匹	方向性	H28年度	H29年度	日保胆(千茂)		
		景観条例は	こ基づく	届出受付件数		件	\rightarrow	107	99			
		屋外広告特	勿の設置	置申請件数		件	\rightarrow	296	331			

1	取 組	5-5-4	良好	な住宅ストックのま	形成								
2	主担当課	部名		都市整備部	課名	居	住政策	課	課長名	長谷川 善久			
3	関係課	審査指導	課										
4	目 標 (前期基本 計画より)	良好な住宅	みな住宅が供給され、市民の居住環境が向上しています。										
5	該当する 重点プラン (前期基本 計画より)	該当なし			内容								
		取組の	評価	評価理由	(H29年度の	の取組内容	と成果	、影響を与	えた外的な	な要因等)			
6	現在の取組	a:順調に進行 b:おおむね順 c:進行にやや d:進行に大幅。	調に進行	居住マスタープランの 住施策推進委員会を 住まいの安全を確保 向上に努めました。 マンションの良好なほンションセミナー等で、 良好な住宅ストックを	設置し、検診 とするために 居住環境を マンション	討内容につ 住宅の耐原 確保するた の区分所有	いて意	見を伺いま 耐震改修 が が	した。 費用の補助 正管理等に を行いまし	を行い、耐震化率の 上関する情報を分譲マ			
	の現状			参考指標		単位	めざす	実終	責値	目標値(年度)			
				少行 旧标		- 平位	方向性	H28年度	H29年度	日保胆(千茂)			
		分譲マンシ	ョンセミ	ナー		回	\rightarrow	2	2	2			
		認定長期個	憂良住宅	三の戸数(累計)		戸	7	1,993	2,248				

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施策	5-5	良好で住みよい環境・景観づくりをすすめる

1	取 組	5-5-5	公的	主宅の改善・充実	<u> </u>				,,,,	主爪ノノン	27.17.12
2	主担当課	部名		建設部	課名		建築課	:	課長名	辻 (
3	関係課										
4	目 標 (前期基本 計画より)	公的住宅	它の改善	悸・充実が図られてい	ます。						
5	該当する 重点プラン (前期基本 計画より)	該当なし			内容						
		取組の	評価	評価理由	(H29年度の	の取組内容	『と成果	、影響を与	えた外的な	な要因等)	
6	H29年度末 現在の取組	a:順調に進行 b:おおむね順 c:進行にやや d:進行に大幅	調に進行遅れ	市営住宅の耐震化い うち平成28年度に3棟 営住宅の耐震化を実 来年度以降に向けて	「、平成29年 施しました。	度に4棟の	耐震化	及び長寿命			
	の現状			参考指標		単位	めざす	実績	責値	目標値	(年度)
						+ 12	方向性	H28年度	H29年度		(千皮)
		市営住宅の 住棟の割る		ど及び長寿命化改善が	ぶ完了した 	%	7	16.7	38.89	100 (F	H34)

4 学識経験者の意見

1	学識経験者	近畿大学総合社会学部 久 隆浩 教授
2		・取組成果が一定あがっていることから、総合評価「B」は妥当であると考える。 ・「緑空間の再整備」は一定の進捗はみられるものの、目標の100%には遠く、より一層の整備が求められる。 ・耐震化については一定成果はみられるものの、平成30年6月の大阪北部地震の被害をみると今後より一層の推進が必要である。 ・景観については、アウトカム評価の工夫が必要である。

1 施策の概要

1	まちの将来像	5	都市活力	」がみなぎる便利で快適なま	5						
2	施策	5-6	時代と める	:市民の期待・要請に	応え活力みなぎる者	『市づくりをすす					
3	施策の 方向性 (前期基本 計画より)	え、生 地域を	来にわたって住み続けたい、さらに活力ある都市として成長・発展させていくという視点から都市構造を捉、生活を支える都市機能を維持・向上させるとともに、中心部における魅力ある地域、拠点への再生、北部域をはじめとする豊かな文化、自然資源等をいかし効果を高める取組などにより、これからの時代を先導る活力あるまちづくりを進めます。								
				部名	補職名•課名	氏 名					
4						岸田茂樹					
4	計画担守	施策	主担当課	都市整備部	都市政策課	_					
		施策	関係課	市民会館跡地活用推進課、商公園緑地課、歴史文化財課	工労政課、市街地新生課、北部	整備推進課、道路交通課、					
		5-6-	1 ★生活	fを支える拠点の整備・充実(拠.	点の配置とネットワークの維持・サ	曽進)					
		5-6-	2 ★魅力	」ある中心市街地・駅周辺の整備	Ħ						
	施策内の 取組	5-6-	3 (仮称))JR総持寺駅を活かした都市づ	< 9						
5	(★:重点プ	5-6-	4 ★北部	『地域の魅力向上							
	ラン該当取 組)										

2 H29年度末現在の施策の現状と課題

施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 総合評価 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。 評価理由(H29年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等) H29年度末現在の施策の主な課題 両西口駅前周辺整備について、関係者協議 平成29年度においては、阪急茨木市駅西口駅前周辺整備では、再整備に向け を進め、人が集い活動できる場を意識したも た関係者協議を行っています。また、JR茨木駅西口駅前周辺整備では、関係権利 課題 者による再整備に向けた勉強会を行い協議会組織が立ち上がりました。 立地適正化計画の策定に向け、居住を誘導する「居住誘導区域」及び必要な都 のとなるよう再整備計画の検討を進める必要 (1)があります。 市機能を誘導する「都市機能誘導区域」等を検討しました 中心市街地の活性化を図るため、取組を進めている「中心市街地活性化基本計 画」の策定において「中心市街地活性化協議会」を開催し、中心市街地の課題や 中心市街地の魅力を向上させる効果的な事 課題を解決する事業、事業効果を図る指標について議論・検討を行うとともに、に 課題 業を精査するとともに、推進体制の検討を進 ぎわい空間の創出を中心市街地全体に広げ、今後の公共空間のあり方を考えるた 2 める必要があります。 め「場を開く社会実験」を実施し、活動を実施する新たなプレーヤーの発掘と事業 の掘り起しに努めました 「市民会館100人会議」での意見や、市民会館跡地活用検討委員会での審議を 踏まえ、コンセプトや敷地等を検討した「茨木市市民会館跡地エリア活用基本構 市民会館跡地エリアでは、南北軸、東西軸 想」を策定しました。 課題 の交点という立地性を踏まえつつ、キーコン JR総持寺駅の開業に合せ、駅前広場・周辺道路・駐輪場等関連公共施設が整備 セプトである「育てる広場」の実現に向けた されました。また、阪急総持寺駅西口駅前広場について、事業用地取得や関係者 取組を進める必要があります。 協議、広場の基本設計業務に取り組むとともに、JR・阪急両駅間を繋ぐ総持寺駅前 線の道路整備を進めました。 北部地域を暮らしの場、活動の場、憩いの場として維持・発展させるための話し合いを継続的に地域住民・団体等と行っています。 課題 JR総持寺駅を中心とした賑わい創出に向け 北部地域の拠点の一つとなる安威川ダム周辺整備の事業化に向けた取組を進めるとともに、関係者と連携のうえ、自転車を切り口とした「いばきた」を体験できる機 た関係者との調整が必要です。 会の提供や、新名神高速道路を資源としたウォーキングイベント等の実施を通じ て、北部地域の魅力発信を行いました。 また、ガイドブック「いばきた」の改訂、千提寺菱ヶ谷遺跡の市民開放を行うほか、 キリシタン散策ルートの寺山・クルス山等に文化財説明案内板を設置するなど様々 課題 な取組により、継続的に情報発信に努めています。 以上から、施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していると判断し、総合評 (5) 価は「B」とします。

1	まちの将来像	5 都	市活力	がみなぎる便利で	快適なまる	<u> </u>						
2	施策	5-6 時	代と市	民の期待・要請に	応え活力∂	みなぎる都		りをすす	める			
3	 施策内の〕	取組の記	平価						* :	重点プラン該当取組		
1	取組	5-6-1		活を支える拠点の	の整備・充	実(拠点	の配	置とネッ				
2	主担当課	部名		都市整備部	課名	都	市政策	課	課長名	福井 龍也		
3	関係課	市街地新	生課									
4	目 標 (前期基本 計画より)			前点となる市の都市技 が向上しています。	心点や地域	拠点、生活	拠点の	整備により)、都市機能	₺が維持・増進され、		
5	該当する 重点プラン (前期基本 計画より)	②魅力と? (まちなか		あふれるまちをつくる 活性化)								
		取組の	評価	評価理由	(H29年度の	の取組内容	と成果	、影響を与	えた外的な	な要因等)		
6	H29年度末 現在の取組 の現状	a:順調に進行 b:おおむね順 c:進行に大幅	調に進行 遅れ	阪急茨木市駅西口駅 駅西口駅前周辺整備 ち上がりました。 立地適正化計画の 導する「都市機能誘導	ずでは、関係 策定に向け	権利者によ、居住を誘	る再整 ^を 尊する「	備に向けた 居住誘導[0	勉強会を行区域」及び必			
				参考指標		単位	めざす 方向性		遺値	目標値(年度)		
								H28年度	H29年度			
1	取組	5-6-2	★缺り	カある中心市街	4. 即国订	の数供						
	-124 -124	リーローと				ソリノ空川田						
2	主担当課	部名			課名		5地新生	上課	課長名	福田 文彦		
2	主担当課	部名		都市整備部 用推進課、商工労政	課名	市後	5地新生 5地新生		課長名 交通課	福田 文彦		
		部名 市民会館 駅周辺 ³ 起業家 ²	跡地活や中心で	都市整備部	課名 課、都市政 進み、人々な商店等が 最わいが生き	市得 策課、市得 が楽しく散 生まれていま	f地新生 策し、 ります。 す。	主課、道路 集う活気あっ さらに、市	文通課 交通課 ふれる空間 民や市民活	けとなっています。 舌動団体等の協働に		
3	関係課 目標 (前期基本	部名 市民会館 駅周辺 ³ 起業家 ² よる活動が	跡地活や中心を や中心を が実を結 話力の	都市整備部 用推進課、商工労政 商業地区の再整備が 爰などにより、魅力的: 古び、中心市街地に則	課名 課、都市政 進み、人々が なでである。 中駅 を 内容 り	市得 策課、市得 が楽しく散 生まれていま 1 括地区の 1 担	f地新生 策し、 ります。 化基の促 でとこだ。	上課、道路 集う活気あった。 さらに、市 計画の策? 進、つい拠点の	交通課 ふれる空間 民や市民活 定(協議会)	」となっています。 活動団体等の協働に の設立)、		
3	関係課 目 標 (前期より) 該当プラン 重点別基本	部名 市民会館 駅周辺 ³ 起業家 ² よる活動な	跡地活や中心形式を やへの支援が実を結 を力のある。	都市整備部 用推進課、商工労政 商業地区の再整備が 爰などにより、魅力的: 古び、中心市街地に則 あふれるまちをつくる 活性化)	課名 課、都市政 進み、人々が な高さいが生まれる。 中駅 りまり 中駅 りまり シビック (H29年度の	市得 策課、市得 が楽しく散 生まれていま 行街地区を持ったとかり クセンタープ の取組内容	野地新生 策し、 ります。 化生のに 状 を に 状 が ま が よ で た と し た り た り た り に り た り に り に り に り に り に り	上課、道路 集う活気あった。 計画の策が かい拠点の 路ののよう いいである。 よりに、 はいでは、 もいでは、 はいでは、 もっとは、 もっとは、 もっとは、 もっとは、 もっとは、 もっとは、 もっとは、 もっとは、 もっとも。 もっとも。 もっとも。 もっとも。 もっとも。 もっとも。 もっとも。 もっとも。 もっとも。 もっとも。 もっとも。 も。 も。 も。 も。 も。 も。 も。 も。 も。 も。 も。 も。 も	交通課 ふれる空間民や市民活定(協議会(整備、 動行化の推	Jとなっています。 活動団体等の協働に の設立)、 進 な 要因等)		
3	関係課 目期より 該点期 当プより (計画 もプラ本り) H29年の 取れ	部名 市民会館 駅周辺 ³ よる活動が 2魅力とが (まちなか	跡地活や中の支払 や中の支払 活空間の 評価	都市整備部 用推進課、商工労政 開業地区の再整備が 爰などにより、魅力的: きび、中心市街地に則 あふれるまちをつくる 活性化) 評価理由 中心市街地の活性に 対いて「四る指標に公のだり、今後の大なブレーヤーの発射 創業や小売店舗等 進されました。	課名 市政 は 本	市行行を対している。 一定は、一定は、一定は、一定は、一定は、一定は、一定は、一定は、一定は、一定は、	野地 策なす。 化生つ環 としてめる 館 ないとしている ないに状 成で中に場ま活 跡 本促ぎ道 果 い心にをし用 地	は果、道路 手達ない。 は気、ののでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	交通課 交通課 交通表のでは、 をは、 をは、 をは、 をは、 をは、 をは、 をは、 を	リとなっています。 活動団体等の協働に の設立)、 進 な要因等) 基本計画」の策定に を解決する事業、事業 や中心市街地全体に 、活動を実施する新 バルや新規開店が促 審議を踏まえ、コンセ		
5	関係課 目 標本 (前画 当プラン本 (前画 当プラント) (前面 3000000000000000000000000000000000000	部名 市民会館 駅業活動が といい 取組の 取組の はまおにはねぬや はいき はんしゅう はんしゅん はんしゅう はんしゅん はんしん はんし	跡地活や中の支払 や中の支払 活空間の 評価	都市整備部 用推進課、商工労政 商業地区の再整備が 爰などにより、魅力的: きび、中心市街地に則 あふれるまちをつくる 活性化) 評価理由 中心市街地の街地の 行、今後の大学で回る指標に立ったなプレーヤーの発 創業や小売店舗等 進されました。 「市民会館100人会調	課名 市政 は 本	市行行を対している。 一定は、一定は、一定は、一定は、一定は、一定は、一定は、一定は、一定は、一定は、	野地 策なす。 化生つ環 としてめる 館 ないとしている ないに状 成で中に場ま活 跡 本促ぎ道 果 い心にをし用 地	まさ 計進い路 いる市に引きた 活活 画、いの 影 中地から 店 検基 実 に 活活 実 に ボス・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	交通課 交通課 交通表のでは、 をは、 をは、 をは、 をは、 をは、 をは、 をは、 を	リとなっています。 活動団体等の協働に の設立)、 進 な要因等) 基本計画」の策定に を解決する事業、事業 や中心市街地全体に 、活動を実施する新 バルや新規開店が促 審議を踏まえ、コンセ		
5	関係課 目期より 該点期 当プより (計画 もプラ本り) H29年の 取れ	部名 市民会館 駅業活動が といい 取組の 取組の はまおにはねぬや	跡地活 や 中の支 を かく が まっと	都市整備部 用推進課、商工労政 商業地区の再整備が 爰などにより、魅力的: 50、中心市街地に則 50、中心市街地に則 50、中心市街地に則 50、中心市街地に則 50、中心市街地に別 50、中心市街地の 50、中心市街地の 50、中心市街地の 50、中心市街地の 50、中心市街地の 50、中心市街地の 50、中心市街地の 50、中心市街地の 50、大学レー小売店 60、大学レー、大店 60、大会 60、50 60、60 60、60 60 60 60 60 60 60 60 60 60 60 60 60 6	課名 市政 は 本	市行行を対している。 一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、	新生。 化生つ環 としいめを 館地 あま。 基のに状 成 で中も場ま活 跡工 ざ 本促ぎ道 果い心、をし用 地リ す	まさ 計進い路 いる市に引きた 活活 画、いの 影 中地から 店 検基 実 に 活活 実 に ボス・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	交通課 空間深 かれる市 は	リとなっています。 活動団体等の協働に の設立)、 進 な要因等) と解決する事業、事業 中心市街地全体に 、活動を実施する新 アルや新規開店が促 審議を踏まえ、コンセ 定しました。		
5	関係課 目期より 該点期 当プより (計画 もプラ本り) H29年の 取れ	部名 市民会館 駅電業活動が ②魅力なか 取組の □ 調制においてに大力を は、進行に大力を	跡地活や中の支統 子の大が まった かん	都市整備部 用推進課、商工労政 商業地区の再整備が 最などにより、魅力的語 が、中心市街地に則 あふれるまちをつくる 活性化) 評価理由 中心市街の活性に対 効果を図る指標につい 広げ、今後のイーの語等 道され民会館100人会記 プトや敷地等を検討し 参考指標 客数	課名 市政 は 本	市行行では、大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大	新生。 化生つ景 と ないといめた 館地 しょ。 基のに状 成で中に場ま活 跡工 ざ向 本促ぎ道 果 い心、をし用 地リ す性	上課、道気、 (あ) (ま) (ま) (ま) (ま) (ま) (ま) (ま) (ま) (ま) (ま	交通課 空間深 かれる市 は	となっています。 活動団体等の協働に の設立)、 進 な要因等) (基本計画」の策定に を解決する事業、事業 や中心市街地全体に が、活動を実施する新 が、た新規開店が促 審議を踏まえ、コンセ 定しました。 目標値(年度)		
5	関係課 目期より 該点期 当プより (計画 もプラ本り) H29年の 取れ	部名 市民会館 駅業活動が ②魅力なか 取組の a:順調なにた大幅 はおりた。注 では、大 ないます。 はないでは、大	跡地活や中の支統 子の大が まった かん	都市整備部 用推進課、商工労政 商業地区の再整備が 最などにより、魅力的語 が、中心市街地に則 あふれるまちをつくる 活性化) 評価理由 中心市街の活性に対 効果を図る指標につい 広げ、今後のイーの語等 道され民会館100人会記 プトや敷地等を検討し 参考指標 客数	課名 市政 は 本	市 市 行 後でま 性再持一 客 催じとめ 発度	ぼります。 化生つ環 と は、といめを 館地 め方 しょ。 本促ぎ道 果 い心、をし用 地リ す性	上課、道路、 計進い路、 一部では、 一部では、 一部では、 一部では、 一部では、 一部では、 一部では、 一部では、 一部では、 一部できた。 一できた。 一できたた。 一できた。 一できた。 一できたた。 一できたた。 一できたた。 一できたた。 一できたた。 一できたた。 一できた。 一できたた。 一でを、 一でを、 一でを、 一でを、 一でを、 一でを、 一でを、 一でを、 一でを、 一でを、 一でを、 一でを、 一でを、 一でを、 一でを、 一でを、	交通課 空間深 かれる市 は	となっています。 活動団体等の協働に の設立)、 進 な要因等) と解決する事業、事業と中心市街地全体に、活動を実施する新 アルや新規開店が促 審議を踏まえ、コンセ 定しました。 目標値(年度) 93,182(H35)		

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施策	5-6	時代と市民の期待・要請に応え活力みなぎる都市づくりをすすめる

1	取 組	5-6-3	(仮利	s)JR総持寺駅を	<u></u> 活かした	 都市づく	[IJ			里点ノフン該当取組
2	主担当課	部名		都市整備部	課名	市衙	封地新 生	上課	課長名	福田 文彦
3	関係課	道路交通								
4	目 標 (前期基本 計画より)		R総持寺駅が開業することで、まちの新たな拠点が誕生し、同駅や阪急総持寺駅周辺地域の活性化が図 いています。							
5	該当する 重点プラン (前期基本 計画より)	該当なし	当なし 内 容							
		取組の	評価	評価理由	(H29年度0	の取組内容	『と成果	、影響を与	えた外的な	は要因等)
6	H29年度末 現在の取組	a: 順調に進行 b: おおむね順覧 c: 進行にやや d: 進行に大幅が	調に進行	JR総持寺駅の開業に 阪急総持寺駅西口駅 取り組むとともに、JR・	前広場につ	ついて、事業	(用地取	得や関係者	皆協議、広場	場の基本設計業務に
	の現状			参考指標		単位	めざす	実紙	責値	日堙ሴ(左连)
				少 与相保		1 年四	方向性	H28年度	H29年度	┤ 目標値(年度) :
		庄一丁目均	也区地区	区計画区域内の人口		人	7	1,141	1,214	1,900(H32)
		JR京都線· 行台数(台		橋梁桁下を通行する	大型車通	台	7	_	_	947(H30)

1	取組	5-6-4	★北i		Ł						
2	主担当課	部名		都市整備部	課名	各	北部	整備推	進課	課長名	岡田 直司
3	関係課	道路交通	課、公園	園緑地課、歴史文化則	才課						
4	目 標 (前期基本計画より)		北部地域が良好な住環境と観光資源を備えた魅力ある地域として整備され、多くの来訪者との交流が増、活性化が図られています。								
5	該当する 重点プラン (前期基本 計画より)	O / - / - · ·)魅力と活力のあふれるまちをつくる 水容 北部地域の豊かな自然・歴史・田園環境の保全・活用、 安威川ダムや新名神周辺整備にあわせた魅力ある施設・空間の 創出								
	H29年度末 現在の取組	取組の	評価	評価理由	(H29年	F度0	り取組内容	と成果	、影響を与	えた外的	な要因等)
6		a: 順調に進行 b: おおむね順 c: 進行にやや d: 進行に大幅	調に進行	北部地域を暮らしの場に地域住民・団体等と北部地域の拠点の一係者と連携のうえ、自り路を資源としたウォー・また、ガイドブック「い策ルートの寺山・クルン情報発信に努めている	行って つとな 転車を キング 、 ばきた ス山等	いま る安! 切りべ こ」の!	す。 威川ダム周 コとした「い 小等の実施 改訂、千提	辺整備 ばきた」 を通じ 寺菱ヶ名	の事業化に を体験でき て、北部地 公遺跡の市	こ向けた取終 る機会の提 域の魅力発 民開放を行	組を進めるとともに、関 性や、新名神高速道 信を行いました。 うほか、キリシタン散
	の現状			参考指標			単位	めざす	実網	漬値	目標値(年度)
				少与 相保			半四	方向性	H28年度	H29年度	1 日保旭(千皮)
		北部地域における交流人口				人	7	179,691	169,410	増加(H31)	

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施策	5-6	時代と市民の期待・要請に応え活力みなぎる都市づくりをすすめる

1	学識経験者	近畿大学総合社会学部 久 隆浩 教授
2	意見等	 ・取組成果が一定あがっていることから、総合評価「B」は妥当であると考える。 ・社会実験等により協働によるユニークな取組が増えていることは評価できる。 ・魅力ある中心市街地の整備では、「起業家への支援などにより、魅力的な商店等が生まれています」という目標に対するアウトカム評価が不十分である。 ・北部地域の魅力向上について、さまざまな取組を展開していることは評価できるが、交流人口が伸び悩んでおり、成果へ向けての工夫が求められる。

1 施策の概要

1	まちの将来像		5 都市活力がみなぎる便利で快適なまち					
2	施策		₋₇ 環境負荷の低減や少子・高齢化社会を見据え持続可能な都市 づくりをすすめる					
3	施策の 方向性 (前期基本 計画より) 限られた資源を有効に活用し、地域内で循環する省エネルギー型の都市をめざすとともに、誰にもやさしい 福祉のまちづくりや、既存のストックの活用や施設の長寿命化などを進めていきます。これにより、将来にわ たって住み続けることができるまちをめざします。 今後も増加すると懸念される空き家については、所有者への働きかけを行うほか、まちづくりへの活用をめざ します。							
				:	部名	補職名·課名	氏 名	
4	評価者等	評価者(部長級)		都	市整備部	部 長	岸田茂樹	
4		施策主担当課		都	市整備部	都市政策課	_	
		施策	関係課	地域福祉課	、居住政策課、審	查指導課、道路交通課		
		5-7-	環境負	負荷の低減				
		5-7-2	2 ★誰に	こも優しいまち	らづくりの推進			
	施策内の 取組	5-7-3	3 危険家	え屋・老朽マン	ノション対策			
5	(★:重点プ	5-7-	4 都市計画施設の見直し					
	ラン該当取 組)							
					_			

2 H29年度末現在の施策の現状と課題

A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 総合評価 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。 評価理由(H29年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等) H29年度末現在の施策の主な課題 課題 大規模開発において、環境負荷の低減に向 (1) けた取り組みが必要です。 平成29年度には、東芝工場跡地でのスマートコミュニティの実現に 向け、関係者と協議を行いました。また、都市の低炭素化の促進に寄 与する低炭素建築物新築等計画の認定を行いました。 大阪府福祉のまちづくり条例に基づく基準適合努力義務対象建築 努力義務対象建築物の建築主に対して、施 物について、バリアフリーに配慮された建築物となるように事業者との 課題 設のバリアフリー化の必要性について、事前 協議を行い、整備がなされました。また、バリアフリー基本構想及び特 協議を通じて理解を深めていただく必要が 2 定事業計画に基づき、重点整備地区内の生活関連経路のバリアフ あります。 リー化に取り組みました。 平成30年3月に策定した総合保健福祉計画にバリアフリーの推進に 空家所有者の意識が低く、情報や知識が不足し 関する項目を記載しました。 ています。また、指導の対応としては、相手方への 課題 協力依頼が大半であり、所有者が特定できない場 空家の活用を促進するため、空家所有者、活用希望者を対象とした 3 合や、特定できても意思や能力が無い場合、適正 セミナーや相談会を開催しました。 管理の実現性が低くなります。 特定空家に対する措置を行うために「空家等の適切な管理に関す る条例」を制定しました。また、適正に維持保全されていない建築物 の所有者等に対し、適正な状態に管理するよう指導しました 阪急総持寺駅西口駅前交通広場の整備に 課題 新たに都市計画決定された、阪急総持寺駅西口駅前交通広場の ついては、地権者へ事業に対する理解を求 **4** 地権者に対し駅前交通広場の必要性について丁寧な説明を行って める必要があります。 います。また、周辺住民の意見を踏まえ、駅前交通広場の整備内容 等について検討を行っています。 以上から、施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していると 判断し、総合評価は「B」とします。 課題 (5)

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち				
2	施策	5–7	環境負荷の低減や少子・高齢化社会を見据え持続可能な都市づくりをすすめる				
_							

	ル 束	3-7 環境負荷の心臓や少丁・同節に任去を兄がた付続可能な部門 つくりどり 9 のる										
3	施策内の	取組の評	平価						★ :	重点プラン該当取組		
1	取組	5-7-1	環境:	負荷の低減								
2	主担当課	部名		都市整備部	課名	都	市政策	課	課長名	福井 龍也		
3	関係課	審査指導	F 查指導課									
4	目 標 (前期基本 計画より)		市民一人ひとりが環境保全に対する高い意識を持ち、環境負荷の低減に努めるとともに、各主体の協働に り、スマートコミュニティや低炭素化社会の実現に向けた取組が進められています。									
5	該当する 重点プラン (前期基本 計画より)	該当なし	当なし 内 容									
		取組の	評価	評価理由	(H29年度0	の取組内容	『と成果	、影響を与	えた外的な	な要因等)		
6	H29年度末 現在の取組 の現状	a:順調に進行 b:おおむ和順 c:進行に大幅。 d:進行に大幅。	調に進行遅れ	東芝工場跡地での2 の低炭素化の促進に	スマートコミ <u>-</u> 寄与する低	ュニティの	物新築等	許画の認知	・と協議を行い 定を3件行い 責値	いました。また、都市いました。		
				参考指標		単位	めざす 方向性	H28年度	H29年度	目標値(年度)		
		任農妻建築	究 Hon 字斤名	 築等計画の認定数(累	⇒ † /)	件	7	34	37			
		仏灰糸建9	紀101 7月3	に守可 四の配た数 (糸	p1 <i>)</i>	117		34	31			
1	取 組	5-7-2	★誰』	にも優しいまちづ	くりの推済							
2	主担当課	部名		建設部	課名	道	路交通	課長名	藤田 憲文			
3	関係課	審査指導	課·地場									
4	目 標 (前期基本 計画より)			いるすべての人が安全 こ、判りやすく利用し						各等のバリアフリー化)導入が進んでいま		
5	該当する 重点プラン (前期基本 計画より)	②魅力と活 (まちなか		うふれるまちをつくる 活性化)	内 駅周辺	<u>!</u> のバリアフ	7リーの:	推進				
		取組の	評価	評価理由	(H29年度0	の取組内容	『と成果	、影響を与	えた外的な	は要因等)		
6	H29年度末 現在の取組	a:順調に進行 b:おおむね順i c:進行にややi	大阪府福祉のまちづくり条例に基づく基準適合努力義務対象建築物について、バリアフリーに配慮された建築物となるように事業者との協議を行い、整備がなされました。バリアフリー基本構想及び特定事業計画に基づき、重点整備地区内の生活関連経路のバリアフリー化に取り組みました。平成30年3月に策定した総合保健福祉計画にバリアフリーの推進に関する項目を記載しました。後着行にや遅れは進行に根を遅れ									
	の現状			参考指標		単位	めざす 方向性		请值 H29年度	目標値(年度)		
		道路特定	事業(生	活関連経路)整備路線	泉数	路線	7	14	17 (H30継	33 (H32)		

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施策	5-7	環境負荷の低減や少子・高齢化社会を見据え持続可能な都市づくりをすすめる

									★ :	重点プラン該当取
1	取組	5-7-3	危険:	家屋・老朽マンシ	ション対策					
2	主担当課	部名		都市整備部	課名	居	住政策	課	課長名	長谷川 善久
3	関係課	審査指導	課							
4	目 標 (前期基本 計画より)	老朽化しす。	老朽化した建築物への適切な対応による安全性の確保や、既存ストックを活用したまちづくりが進んでいます。							
5	該当する 重点プラン (前期基本 計画より)	該当なし	内 容							
		取組の	評価	評価理印	由(H29年度(の取組内容	ドと成果	、影響を与	えた外的な	は要因等)
6	H29年度末 現在の取組	a:順調に進行 b:おおむね順記 c:進行にややi d:進行に大幅	調に進行遅れ	しました。 特定空家に対する	が措置を行うた	めに「空家	等の適	切な管理に	関する条例	ナーや相談会を開作 力を制定しました。 管理するよう指導し
	の現状			参考指標		単位	めざす 方向性	実 H28年度	責値 H29年度	目標値(年度)
1	取 組	5-7-4		計画施設の見直	<u> </u>					
			DIS. 13.		生し					
2	主担当課	部名	HISTIN	都市整備部	課名	都	市政策	課	課長名	福井 龍也
3	主担当課	部名	HISTIN			都	市政策	課	課長名	福井 龍也
					課名					
3	関係課 目 標 (前期基本	都市計画		都市整備部	課名					
3	関係課目期より対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対	都市計画す。	画施設∂	都市整備部の整備を計画的に進	進めるとともに	、必要性・	実現性	等の観点な	から適宜見	直しが行われてい
3	関係課 目期は 計画 当プより) を重前期はより) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	都市計画す。	画施設の 評価 調に進行	都市整備部の整備を計画的に進	課名 生めるとともに 内容 由(H29年度の では、 では、 では、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	、必要性・ の取組内容 急総持寺駅 行っていま	実現性 を成果 の の の の の の の の の	等の観点z 、影響を 与 前交通広場	から適宜見 ・えた外的 が ・ みの地権者	直しが行われていな要因等)
3 4 5	関係課 目期より) 該点期 当プより) おのでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	都市計画す。 該当なし 取組の は 選問になった 取組の は 選になった は 単行順や いっぱん は 単行順や いっぱん に 進行順や いっぱん に 進行順や いっぱん に がんしゃく しゅうしゅう はんしゃく しゅうしゅう はんしゃく しゅうしゅう はんしゅう はんしゅん はんしゅん はんしゅう はんしゅん	画施設の 評価 調に進行	都市整備部 の整備を計画的に進 新たに都市計画法 の必要性について、 の整備内容等につい	課名 生めるとともに 内容 由(H29年度の では、 では、 では、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	の取組内容 急総持寺駅 うでいます	実現性の成果の関す。	等の観点な 、 影響を与 前交通広場 、周辺住民	から適宜見 ・えた外的 が ・ みの地権者	直しが行われてい (な要因等) (こ対し、駅前交通広省まえ、駅前交通広
3 4 5	関係課 目期は 計画 当プより) を重前期はより) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	都市計画す。 該当なし 取組の は 選問になった 取組の は 選になった は 単行順や いっぱん は 単行順や いっぱん に 進行順や いっぱん に 進行順や いっぱん に がんしゃく しゅうしゅう はんしゃく しゅうしゅう はんしゃく しゅうしゅう はんしゅう はんしゅん はんしゅん はんしゅう はんしゅん	画施設の 評価 調に進行	都市整備部 の整備を計画的に進 評価理E 新たに都市計画法 の必要性について	課名 生めるとともに 内容 由(H29年度の では、 では、 では、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	、必要性・ の取組内容 急総持寺駅 行っていま	実現性の大力を表しています。	等の観点な 、 影響を与 前交通広場 、周辺住民	から適宜見 ・えた外的 の 場の地権者 に その意見を路	直しが行われていな要因等)
3 4 5	関係課 目期は 計画 当プより) を重前期はより) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	都市計画す。 該当なし 取組の は 選問になった 取組の は 選になった は 単行順や いっぱん は 単行順や いっぱん に 進行順や いっぱん に 進行順や いっぱん に がんしゃく しゅうしゅう はんしゃく しゅうしゅう はんしゃく しゅうしゅう はんしゅう はんしゅん はんしゅん はんしゅう はんしゅん	画施設の 評価 調に進行	都市整備部 の整備を計画的に進 新たに都市計画法 の必要性について、 の整備内容等につい	課名 生めるとともに 内容 由(H29年度の では、 では、 では、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	の取組内容 急総持寺駅 うでいます	実現性の成果の関す。	等の観点な ・影響を与 前交通広場 ・、周辺住民	から適宜見 すえた外的な みの地権者に この意見を路	直しが行われてい (な要因等) (こ対し、駅前交通広省まえ、駅前交通広
3 4 5	関係課 目期は 計画 当プより) を重前期はより) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	都市計画す。 該当なし 取組の は 選問になった 取組の は 選になった は 単行順や いっぱん は 単行順や いっぱん に 進行順や いっぱん に 進行順や いっぱん に がんしゃく しゅうしゅう はんしゃく しゅうしゅう はんしゃく しゅうしゅう はんしゅう はんしゅん はんしゅん はんしゅう はんしゅん	画施設の 評価 調に進行	都市整備部 の整備を計画的に進 新たに都市計画法 の必要性について、 の整備内容等につい	課名 生めるとともに 内容 由(H29年度の では、 では、 では、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	の取組内容 急総持寺駅 うでいます	実現性の成果の関す。	等の観点な ・影響を与 前交通広場 ・、周辺住民	から適宜見 すえた外的な みの地権者に この意見を路	直しが行われてい (な要因等) (こ対し、駅前交通広省まえ、駅前交通広
3 4 5	関係課 目期は 計画 当プより) を重前期はより) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	都市計画す。 該当なし 取組の は 選問になった 取組の は 選になった は 単行順や いっぱん は 単行順や いっぱん に 進行順や いっぱん に 進行順や いっぱん に がんしゃく しゅうしゅう はんしゃく しゅうしゅう はんしゃく しゅうしゅう はんしゅう はんしゅん はんしゅん はんしゅう はんしゅん	画施設の 評価 調に進行	都市整備部 の整備を計画的に進 新たに都市計画法 の必要性について、 の整備内容等につい	課名 生めるとともに 内容 由(H29年度の では、 では、 では、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	の取組内容 急総持寺駅 うでいます	実現性の成果の関す。	等の観点な ・影響を与 前交通広場 ・、周辺住民	から適宜見 すえた外的な みの地権者に この意見を路	直しが行われてい (な要因等) (こ対し、駅前交通広省まえ、駅前交通広

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施策	5-7	環境負荷の低減や少子・高齢化社会を見据え持続可能な都市づくりをすすめる

1	学識経験者	近畿大学総合社会学部 久 隆浩 教授
2	意見等	・取組成果が一定あがっていることから、総合評価「B」は妥当であると考える。 ・空家活用などストック活用の取組は始まったばかりであり、今後の成果に期待する。 ・スマートコミュニティや低炭素化社会の実現については、モデル地区での取組は進んでいるが、目標は既成市街地や市民全体への展開であり、方策検討の必要がある。

1 施策の概要

1	まちの将来像		都市活力	」がみなぎる便利で快道	<u></u> 適なまち					
2	施策	5–8	暮らし	らしと産業を支える交通を充実させる						
3	施策の 方向性 (前期基本 計画より)	国土軸に位置する優位性をさらにいかしていくとともに、平成25年度に策定した総合交通戦略に基づき、「住みやすい・移動しやすい」まちづくりのため、道路ネットワークの充実と強化、公共交通の利用促進や歩行者・自転車空間の安全性の向上等の総合的な交通施策を進めます。								
				部名	補	職名•課名	氏 名			
4	評価者等	評価者(部長級)		建設部		部 長	鎌谷博人			
4	評価有等	施策	主担当課	建設部	道	路交通課	_			
		施策	関係課	都市政策課、北部整備推進課、建設管理課						
		5-8-	1 ★公単	- - 交通の維持・充実						
		5-8-	2 ★道路	S整備の推進						
	施策内の	5-8-	3 駐車場	駐車場・駐輪場の充実						
5	取組 (★:重点プ	5-8-	4 歩行者	歩行者、自転車利用環境の整備						
	ラン該当取 組)	5-8-	5 ★交通	★交通安全対策の推進						

2 H29年度末現在の施策の現状と課題

<u>2</u>	H29年度末現在の施策の現状と課題								
1	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。								
	評価理由(H29年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)	H29年度末現在の施策の主な課題							
	主要な公共交通手段である路線バスの利便性向上・利用促進を図	課題	山間部や市街地の利用者の少ない路線で 減便等の運行変更が行われ、バスの利便性 が低下しています。また、運転免許証自主返 納後の高齢者の移動支援が求められていま す。						
	るため、市内のバス路線情報が集約された公共交通マップの作成を 行いました。 茨木松ケ本線のアンダーパス開通等、都市計画道路を含む、主要 道路の道路改良工事を実施し、歩行者・自転車等の通行の安全や交 通渋滞対策等、円滑で安全が交通の確保に努めました。	課題②	駅前周辺や幹線道路において、渋滞が発生しています。また、道路拡幅による渋滞解消も、用地交渉の難航等で整備が進みません。橋梁長寿命化修繕計画も、限られた予算内での執行では予算の平準化は図れていません。						
2	また、平成30年春に開業したJR総持寺駅の周辺部では、都市機能の充実強化を図るため、周辺道路の整備を進めました。 新名神関連事業では、インターチェンジへのアクセス道路となる泉原 千提寺線(1工区)の整備を完了しました。橋梁については、耐震補強及び修繕工事を順次、実施しました。 JR総持寺駅の開業に合わせ、茨木市JR総持寺駅南自転車駐車	課題 ③	策定した駐車場施設の修繕基本計画を基に 修繕実施計画を作成し、適切な維持管理を 実施していく必要があります。						
	場、同北自転車駐車場を整備し、供用を開始しました。 また、西駅前自転車駐車場の修繕を実施した他、駐車場施設の修繕基本計画を策定しました。 自転車レーンの整備については、茨木市自転車利用環境整備計 画に位置付けられた優先整備対象路線を中心に整備を行い、路線	課題 ④	自転車ネットワーク路線では、幅員が狭い道路での自転車通行空間の整備が困難となっています。また、それ以外の生活道路等では自転車レーン等の安全対策が不足しています。						
	全体では47%が完成しました。	課題 ⑤	交通ルールに関する知識が正しく理解されていないことから、事故が発生しています。 特にルール遵守意識の低さ等から、高齢者の事故が全体に占める割合が高くなっています。						

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち					
2	施策	5-8	暮らしと産業を支える交通を充実させる					
	- 15-5-1							

	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		日の日本に入れる人種とお人による								
3	施策内の	取組の記	平価						★ : 	重点プラン設	核当取組
1	取組	5-8-1	★公	共交通の維持・充	実						
2	主担当課	部名		建設部	課名	道	路交通	課	課長名	藤田	憲文
3	関係課	都市政策	課								
4	目 標 (前期基本 計画より)	市内では交通弱者	市内ではバス路線網が維持され、多くの人が利用しています。また、タクシーは、路線バスを利用できない 通弱者やさまざまな利用者のニーズに応えるなど、多様なサービスが提供されています。								
5	該当する 重点プラン (前期基本 計画より)	②魅力と治 (まちなか		oふれるまちをつくる 活性化)	内 容	ど通の利用	促進を	はじめとす	る、交通環境	竟の整備	
		取組の	評価	評価理由	(H29年度(の取組内容	学と成果	:、影響を与	えた外的な	(要因等)	
6	H29年度末 現在の取組 の現状	a:順調に進行 b:おおむね順記 c:進行にやや記 d:進行に大幅	調に進行遅れ	総合交通戦略で策定た。 た。 総合交通戦略に基づ 共交通の利便性向上 主要な公共交通手段 報が集約された公共3	づき、移動に に向けた諸 とである路	こ関する実! 施策の検i 線バスの利	態調査ペ 討を行っ 便性向_	や公共交通 た。 上・利用促え	に対するニ - 進を図るため	ーズ調査を行	fい、公
	0万5九人			参考指標		単位	めざす 方向性	実約 H28年度	責値 H29年度	目標値(:	年度)
		バス利用者	 針数			人/日	→	25519	集計中	24,700 (I	H35)
		市内の移動 49.8)	市内の移動に対する満足度(平成24年の実績は			%	7	_	_	55 (H3	35)
		鉄道施設而	耐震補強	(済箇所数		箇所	7	8	-	8 (H28	8)
1	取組	5-8-2	★道記	<u></u> 路整備の推進							
2	主担当課	部名		建設部	課名	道	路交通	課	課長名	藤田 ء	憲文
3	関係課	北部整備	推進課								
4	目 標 (前期基本 計画より)		市中心部への通過交通の流入を抑制するとともに、市内幹線道路網の整備推進により、市内交通が円滑 はなるよう道路整備が進んでいます。また防災空間としての役割にも配慮されています。								

1	取 組	5-8-2	★道	路整備の推進						
2	主担当課	部名	建設部 建設部 記			道	路交通	課	課長名	藤田 憲文
3	関係課	北部整備	推進課							
4	目 標 (前期基本 計画より)		市中心部への通過交通の流入を抑制するとともに、市内幹線道路網の整備推進により、市内交通が円滑なるよう道路整備が進んでいます。また防災空間としての役割にも配慮されています。							
5	該当する 重点プラン (前期基本 計画より)	③安全•安	安全・安心に暮らせるまちをつくる 内容 災害時に防災空間ともなる道路の整備							
		取組の記	評価	評価理由	(H29年度の	の取組内容	を成果	:、影響を与	えた外的な	な要因等)
6	H29年度末 現在の取組	a:順調に進行 b:おおむね順記 c:進行にやや過 d:進行に大幅が	遅れ	市内の都市計画道路 や交通渋滞の解消等、 茨木松ヶ本線につい JR総持寺駅の周辺部 を進めております。 新名神関連事業では 備が完了しました。 橋梁については耐震	円滑で安全 てはJRのアン Sについては インターチュ	な交通の確 /ダーパスの 、都市機能 -ンジへのア	保に努 の工事が の充実が クセス違	めました。 完了し、府道 強化を図るた 直路となる泉	道大阪高槻戸 めに、駅前	京都線と接続しました。 の周辺道路等の整備
	の現状			参考指標		単位	めざす	実終	責値	目標値(年度)
				少 有拍标		甲四	方向性	H28年度	H29年度	日保胆(平皮)
		都市計画道路(市施工)の整備率				%	7	80	81	84.5(H31)
		耐震・補強済みの橋梁数				橋	\rightarrow	18	19	19 (H29)
		維持補修治	斉みの橋	香梁数		橋	7	27	33	48 (H31)
							•			

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施策	5–8	暮らしと産業を支える交通を充実させる

		★:重点プラン該当取組									
1	取 組	5-8-3	駐車:	場・駐輪場の発	実						
2	主担当課	部名		建設部	課名	建	設管理	課	課長名	中田 弘	之
3	関係課										
4	目 標 (前期基本 計画より)	交通の料	交通の状況や地域の特性に応じた駐車場・駐輪場の整備が進んでいます。								
5	該当する 重点プラン (前期基本 計画より)	該当なし	亥当なし 内								
		取組の	評価	評価理	里由(H29年度	の取組内容	『と成果	、影響を与	えた外的な	は要因等)	
6	H29年度末 現在の取組 の現状	a:順調に進行 b:おおむね順 c:進行にやや d:進行に大幅	調に進行遅れ	平成30年3月1日 営しています。平月ました。駐車場施設	成28年度に行っ	った西駅前	町自転車	車駐車場の 年度)の修約	設計委託に 善基本計画を	基づき修繕を	実施し
	の現仏			参考指標		単位	めざす		績値 	目標値(年	度)
							方向性	H28年度	H29年度		
	TT7 糸日	5-8-4	歩行:	老 白転車利!	田環培の敕	借					
1	取組	5-8-4	歩行:	者、自転車利用				======================================	理長夕	藤田 害	→
2	主担当課	5-8-4 部名	歩行:	者、自転車利原 建設部	用環境の整 課名		路交通	課	課長名	藤田 憲	文
3	主担当課関係課	部名 歩行者、	自転車	建設部 重、自動車の通行	理名空間の分離な	道とによる安全	全な歩行	う空間の確		<u> </u>	
2	主担当課関係課	部名 歩行者、	自転車	建設部	理名空間の分離な	道とによる安全	全な歩行	う空間の確		<u> </u>	
3	主担当課 関係課 目 標 (前期基本	部名 歩行者、	自転車	建設部 重、自動車の通行	理名空間の分離な	道とによる安全	全な歩行	う空間の確		<u> </u>	
3	主担当 関係課 目前期 当当プラム またの またの またの またの またの またの またの またの またの またの	部名 歩行者、 用環境の	自転車	建設部 「、自動車の通行をより、安全な歩行る	空間の分離な者、自転車通行	道というではいる。	全な歩行なってい	亍空間の確 います。	全保が進むる	とともに、自転	
3	主担 関係 課 目前画 当プ基リン る シューン (計画 まり) また (計画 まり) を 乗 の ままり (計画 まり) を 乗 の まま (利金) できまる (対金) できまる (対金	部名 歩行者、 用環境の 該当なし	自転車の上にこれ	建設部 「、自動車の通行をより、安全な歩行る	課名 空間の分離な者、自転車通行 内容 理由(H29年度・ 登整備計画に位	道 どによる安: 庁が可能とな	全な歩行 なってい ドと成果	子空間の確 います。 、影響を与	全保が進む。 ラえた外的な	ともに、自転	車利
2 3 4 5	主担当 関係課 目期期よ 計画 当プラ基リン (計画より) お直点期画より)	部名 歩行者、の 下記 (本語) (本語) には (本語	自転車の上にこれ	建設部 正、自動車の通行なより、安全な歩行る 評価理 自転車利用環境レーンの整備を行	課名 空間の分離な者、自転車通行 内容 理由(H29年度・ 登整備計画に位	道 どによる安全 テが可能とな の取組内容	全な歩行なってい なっている いている i	丁空間の確 、影響を与 自転車ネッ	全保が進む。 ラえた外的な	さ 要因等)	車利
2 3 4 5	主担 関係 課 目前画 当プ基リン る シューン (計画 まり) また (計画 まり) を 乗 の ままり (計画 まり) を 乗 の まま (利金) できまる (対金) できまる (対金	部名 歩行者、の 下記 (本語) (本語) には (本語	自転車の上にこれ	建設部 (主、自動車の通行をより、安全な歩行を (まり、安全な歩行を (事価理 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	課名 空間の分離な者、自転車通行 内容 理由(H29年度・ 登整備計画に位	道 どによる安: テが可能とな	全な歩行なってい なってい 琴と成果 ている!	丁空間の確 、影響を与 自転車ネッ	全保が進む。 ラえた外的 な トワーク路線	ともに、自転	車利
2 3 4 5	主担 関係 課 目前画 当プ基リン る シューン (計画 まり) また (計画 まり) を 乗 の ままり (計画 まり) を 乗 の まま (利金) できまる (対金) できまる (対金	部名 歩行者の 歩行境の 取組の a:順調におれや中幅 は、進行に大幅	自転車に進行を選択して	建設部 正、自動車の通行なより、安全な歩行る 評価理 自転車利用環境レーンの整備を行	課名 空間の分離な者、自転車通行 内容 理由(H29年度・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	が可能となっています。	全な歩行なってい なっている いている i	子空間の確 います。 、 影響を与 自転車ネッ	全保が進む。 ラえた外的な トワーク路線 賃値	さ 要因等)	車利 云車
2 3 4 5	主担 関係 課 目前画 当プ基リン る シューン (計画 まり) また (計画 まり) を 乗 の ままり (計画 まり) を 乗 の まま (利金) できまる (対金) できまる (対金	部名 歩環 の を おおいる を の は は の の は は の の は は は の の は は は の の は は は の に は は れ の は は は の に は は れ の は は は に は れ の は は れ の は は れ の は は れ の は は れ の は は れ の は は れ の は は れ の は は れ の は は れ の は は れ の は れ の は れ の は は れ の は の は	自転すた。自転はこれに進行を選択を選れ	建設部 (三、自動車の通行をより、安全な歩行えまり、安全な歩行えまり、安全な歩行えます。) (主、自動車の通行をおり、安全な歩行えまり、安全な歩行えます。) (本の事件を行うを表する。) (本の事件を行うを表する。)	課名 空間の分離な者、自転車通行 内容 理由(H29年度 でいました。	が可能となっています。 単位	全な歩行なってい 水 大	「空間の確かます。 、影響を与 自転車ネット 円28年度	を を を た 外 的 な は し し し つ り 路 線 は も は も は も も も も も も も も も も も も も も	とともに、自転 で要因等) において、自転 目標値(年	車利 (表)
2 3 4 5	主担 関係 課 目前画 当プ基リン る シューン (計画 まり) また (計画 まり) を 乗 の ままり (計画 まり) を 乗 の まま (利金) できまる (対金) できまる (対金	部名 歩行者の	自転転に通過に進行を対している。	建設部 正、自動車の通行をより、安全な歩行るより、安全な歩行る 自転車利用環境レーンの整備を行 参考指標 牛数(年単位で集ま	課名 空間の分離な者、自転車通行 内容 理由(H29年度 でいました。	が可能となった。 でによる安全でではいいでは、 の取組内容では、 単位では、 体/千人・ 年	全な歩行なっている。	「空間の確かます。 、影響を与 自転車ネット 円28年度	を を を た 外 的 な は し し し つ り 路 線 は も は も は も も も も も も も も も も も も も も	とともに、自転 (変因等) において、自転 目標値(年 1.83(H36	車利 三度 (6)

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち
2	施策	5–8	暮らしと産業を支える交通を充実させる

1	取 組	5-8-5	★交	通安全対策の推議	<u></u>					<u> 主 ボン ノン </u>	
2	主担当課	部名		建設部	課名	道	路交通	課	課長名	藤田 憲文	
3	関係課	建設管理	課								
4	目 標 (前期基本 計画より)	>	安全な道路環境の形成や市民の交通意識の高まりにより、事故の発生件数が減少し、安全かつ快適な通行が実現しています。								
5	該当する 重点プラン (前期基本 計画より)	③安全•安	安全・安心に暮らせるまちをつくる 内 安全な道路環境の形成、 容 交通ルールの遵守や交通マナーの啓発								
		取組の	評価	評価理由	(H29年度0	の取組内容	『と成果	:、影響を与	えた外的な	な要因等)	
6	H29年度末 現在の取組	a:順調に進行 b:おおむね順 c:進行にやや d:進行に大幅	調に進行	あり、平成29年度も引	続き駅前周で自転車のクロボックボックである。 で自転車のクロボックを表する。	辺の放置自 レール遵守 ール、車止	転車等・マナー	等の啓発、指一の向上に対 ・の向上に対	音導、撤去等 対する街頭が 安全施設の	啓発の実施回数を増 の修繕を行った。	
	の現状			参考指標		単位	めざす		責値	日博佐/左连\	
				多行1日保		- 平位	方向性	H28年度	H29年度	- 目標値(年度)	
		総人口に対	故発生率(年単位で集	%	>	0.3	0.3	0.5 (H31)			
	-										

4 学識経験者の意見

1	学識経験者	近畿大学総合社会学部 久 隆浩 教授
2	意見等	・取組成果が一定あがっていることから、総合評価「B」は妥当であると考える。 ・茨木松ケ本線のアンダーパス開通等道路整備や公共交通の充実について進捗がみられ、評価できる。

1 施策の概要

Ė	心束の似女									
1	まちの将来像	5	都市活力	都市活力がみなぎる便利で快適なまち						
2	施策	5–9	市民・	ī民・民間によるまちづくりを促進する						
3	施策の 方向性 (前期基本 計画より)	まちづくりに関する知識の普及、情報の提供、まちづくり活動への支援を継続して進め、住民主体のまちづくりの促進に努めるだけでなく、民間事業者と協力して進める新しいまちづくりについても検討、推進し、本市の魅力と活力を発信していきます。								
				部名	補職名∙課名	氏 名				
4	亚瓜老生	評価者(部長級)		都市整備部	部 長	岸田 茂樹				
4	評価者等 	施策	主担当課	都市整備部	都市政策課	_				
		施策	関係課	市街地新生課、審査指導課、道路交通課、北部整備推進課						
		5-9-	1 民間と	の連携、活力の活用						
		5-9-	2 市民に	ア 市民による地域づくり						
	施策内の 取組									
5	(★:重点プ									
	ラン該当取 組)									

2 H29年度末現在の施策の現状と課題

	1123千皮木坑住切池泉切坑水C袜园								
1	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。								
	評価理由(H29年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		H29年度末現在の施策の主な課題						
			基本構想を策定するために必要な関係者への説明や意見聴取が必要です。また、基本構想をベースとして、事業者公募に向けた準備を進める必要があります。						
	平成29年度は、安威川ダム周辺整備において、民間活力の導入を進めるため、事業参画意向を示す事業者とヒアリングを進めました。また、そのヒアリング結果を参考に、周辺整備のコンセプトや整備範囲、手法に関する「基本構想(案)」を作成しました。 にぎわい空間の創出を中心市街からにだが、今後の公共空間の	課題②	公共施設や市民が利用できる施設について、関係部局や関係機関との連携が必要です。また、大規模開発等において、地域が主体となった将来の維持管理や運営等が可能となるよう、地域を育てる取組が必要です。						
2	在り方を考えるため、その利活用を図る「場を開く社会実験」の実施により、多様な主体の参加による賑わい創出活動が生まれる等、一定の成果が上がってきています。 東芝工場跡地及びJR総持寺駅前でもエリアマネジメントの検討を進めています。 「いばらきまちづくりラボ」等を開催し、市民のまちづくり活動へ参加	課題 ③	東芝工場跡地でのスマートコミュニティ構想 の実現に向け、将来の住民参画を視野に入 れたエリアマネジメント組織設立のため、関 係者協議が必要です。						
	するきっかけづくりやまちづくりに関する知識の普及等に努めることで、市民のまちづくりへの関心が高まり、参加者同士の交流が生まれています。 以上から、施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していると判断し、総合評価は「B」とします。	課題	市民がまちづくり活動に参加できるよう、まちづくりに関するさらなる情報提供や具体的な取組につながるきっかけづくりが必要です。						
		課題 ⑤							

1	まちの将来像	5 都市活力がみなぎる便利で快適なまち									
2	施策	5-9 市民・民間によるまちづくりを促進する									
3	施策内の	取組の評価 ★:重点プラン該当取組									
1	取組	5-9-1 民間との連携、活力の活用									
2	主担当課	部名		都市整備部 課名		都市政策課		課長名	福井 育	龍也	
3	関係課	市街地新	生課、智	F 查指導課、道路交通課、北部整備推進課							
4	目 標 (前期基本 計画より)	地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるために、都市計画制度や民間活力等を活用たエリアマネジメントの取組が進み、地域の魅力が向上しています。								活用し	
5	該当する 重点プラン (前期基本 計画より)	該当なし		内容							
		取組の評価		評価理由(H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)							
6	H29年度末 現在の取組 の現状	安威川ダム周辺整備において、民間活力の導入を進めるため、事業参画意向を示す事業者とヒアリングを進めました。また、そのヒアリング結果を参考に、周辺整備のコンセプトや整備範囲、手法に関する「基本構想(案)」を作成しました。にぎわい空間の創出を中心市街地全体に広げ、今後の公共空間の在り方を考えるため、その利活用を図る「場を開く社会実験」の実施により、多様な主体の参加による賑わい創出活動が生まれる等、一定の成果が上がってきています。東芝工場跡地及びJR総持寺駅前でもエリアマネジメントの検討を進めています。									
	の現仏			参考指標		単位	めざす		責値 	 目標値(:	年度)
							方向性	H28年度	H29年度		. ,,24,
1	取組	5-9-2 市民による地域づくり									
2	主担当課	部名		都市整備部課名		都市政策課			課長名	福井 育	龍也
3	関係課										
4	目 標 (前期基本 計画より)	地域における住民の主体的な活動を支援することにより、住民による地域づくりが進んでいます。									
5	該当する 重点プラン (前期基本 計画より)	該当なし									
	H29年度末 現在の取組 の現状	取組の	評価	評価理由	(H29年度0	り取組内容	『と成果	、影響を与	えた外的な	な要因等)	
6		していばらきまちづくりラボ」等を開催し、まちづくりに関する知識の普及や市民のまちづくり活動へ参加するきっかけづくり等に努めることで、市民のまちづくりへの関心が高まり、参加者同士の交流が生まれています。 は進行にやや遅れ は、進行に大幅な遅れ									
		参考指標				単位	めざす 方向性	実績	責値	目標値(:	年度)
								H28年度	H29年度	口 (赤 (巴 (・	一汉/

1	まちの将来像	5	都市活力がみなぎる便利で快適なまち	
2	施策	5-9	市民・民間によるまちづくりを促進する	

1	学識経験者	近畿大学総合社会学部 久 隆浩 教授
2	意見等	・取組成果が一定あがっていることから、総合評価「B」は妥当であると考える。 ・社会実験等、協働でのまちづくりが進んできたことは評価できる。 ・「市民による地域づくり」は都市整備だけでなく、福祉や教育なども含めた総合的なものであり、分野横断的に地域支援を行っていく必要がある。